

環境省 2014
事務系内定者の声



■目次

I 内定者プロフィール

- ・22歳女 大阪大学人間科学部 4—5p
- ・21歳女 京都大学経済学部 6—7p
- ・27歳男 東京大学公共政策大学院 8—9p
- ・21歳男 東北大学法学部 10—11p
- ・26歳女 同志社大学法科大学院 12—13p
- ・23歳女 東京大学公共政策大学院 14—15p
- ・24歳男 京都大学公共政策大学院 16—17p
- ・22歳男 東京大学農学部 18—19p
- ・21歳男 早稲田大学政治経済学部 20—21p
- ・27歳男 社会人経験者 22—23p
- ・23歳男 名古屋大学法学部 24—25p
- ・23歳男 京都大学公共政策大学院 26—27p

II 試験勉強のすすめ方

- ・教養区分 29p
- ・政治国際区分 30p
- ・法律区分 31p
- ・経済区分 32p

III コラム集

- ・民間就活と公務員試験の両立 34—36p
- ・部活と公務員試験の両立 36p
- ・地方出身者向けアドバイス 37p
- ・官庁訪問特集 38p
- ・官庁訪問経験者から伝えたいこと 39—41p
- ・留学経験者から伝えたいこと 41p
- ・内定者の言いたい放題 42—48p



内定者 プロフィール



2014



PROFILE

No.1

氏名 ▶ H.Y 年齢 ▶ 22 歳女

出身大学 ▶ 大阪大学 人間科学部
福祉社会学専攻

部活・サークル ▶ 国際交流サークル BSP

試験区分(席次) ▶ 大卒法律
(201-250/564)

併願状況 ▶ 地方自治体
政府系機関
国家一般職

好きな本 ▶
山田詠美『ぼくは勉強ができない』

評価された点 ▶ 正義感

人生の夢 ▶ 老後は悠々自適

<Destinations to Visit>

1日目:なし

2日目:厚生労働省

3日目:環境省

What Brought You to this Ministry?

「もっとも信念が貫ける場所」

私が環境省を選んだのは、自分の持っている価値観と、環境省の取り組みが意外に合致していたからです。

私は、自分の価値観として、自分のせいではない要因で損をする人、虐げられる人がいることに強い違和感を持っています。振り返ってみると、専攻の福祉分野の中でもとくに興味を持っていたのは、非正規労働者、一人親、ホームレスなど、「社会的弱者」と呼ばれる人たちでした。

環境省では、地球温暖化対策や、自然保護に取り組んでいます。そこで守られているのは、将来世代や、動植物といった声を持たない人たち、広い意味での「社会的弱者」です。「社会的弱者」は経済活動の裏で、どうしても割をくってしまう立場にあります。しかし、環境省で、環境税などを通じ、このような問題を解決していくことができると考えました。

School Days

「興味があることを、とりあえずやってみる」

大学時代は、一つの場所に留まってコツコツにかをするよりも、興味のあることにどんどんチャレンジする期間でした。アルバイトでは、塾講師、ハンディキャップを持つ学生の授業補助、バーテンダー、販売などに取り組み、課外活動では、ホームレス支援のイベントをやってみたり、インドで2か月間インターンシップをしたりしていました。

◇ インドの学校でのインターンシップ

とある学生団体に、インドの学校を紹介してもらってインターンをしました。比較的に裕福な学校で予想と違っていたのですが、楽しかったです。2か月間いろんな国の子とルームシェアしたのもいい思い出です。

◇ 児童養護施設、障害者就労施設、釜ヶ崎へ

ゼミの教授が現場に足を運ぶことを重視される方だったので、授業の一環でいろいろな場所に行けました。イメージしにくい場所も、行ってみると意外とフツーです。釜ヶ崎(日雇い労働者の街)はぜひ一度行ってみてください。

Preparation for the Examinations

「計画性が大事。でも、最後はなんとかなる。」

【筆者のスペックの確認】

人間科学部なのに、人間科学区分でなく法律区分を受験しました。よって法律は未履修。ほぼ独学です(生協講座わかりにくかった)。中学受験経験があります(数的はなんとなくできた)。

【一次試験】

(教養)

知能分野の出題が多いので、知識分野は時事しか勉強しなかった。

(専門)

法律:3年の夏の時点で、「『ぶっけん』って物件じゃなくて物権なんだ～」のレベルでした。年内に憲法・民法・行政法のスー過去を一周、2月までにもう一周、4月までにもう一周のペースで勉強しました。

その他:経済は年内にスー過去を一周。労働法は新聞とかの知識で(つまりノー勉)。財政・経済事情は時事の勉強をまじめにしておけば取れました。

【二次試験】

二次試験の勉強は、正直あんまりしてないので、参考にしないでください。民法捨てて、公共政策を選択することにして、憲法・行政法は、「公務員試験 専門記述式答案完成ゼミ」(実務教育出版)をざっと読んでください。



▲タージマハル前にて

One Point Advice

「なんかもう嫌になってきた」という人へ

筆者は某予備校の総合職模試で「お前受かる見込みないから！！」という判定を頂き、ひじょーに心が折れた時期がありました。不安に駆られて、しばらく勉強していても辛いとしか思えませんでした。しかし、蓋を開けてみると、教養6割、専門8割ちよいで受かっていました(模試難しすぎです)。

「もう無理なんちゃうか」と思うのは、あなたが頑張っているからこそです。大丈夫です。なんとかなります。多少成績が悪くても、筆者のごとく落ち込まないでください。最悪だめでも死ぬわけではありません。

気分が晴れたら、また頑張りましょう！

~Message to Test-Takers~

「進路は、よく考えて。」

「高学歴だから、とりあえず総合職」という人を見かけますが、リスクーだなぁと思います。就職先を決めるのは、大学進学とはまったく違う、人生を左右する進路選択です。どういう人生を送りたいのか？そのために譲れないものは何か？よく考えて、進路選択をした方がいいと思います。

あとは、別に就職で失敗しても死ぬわけじゃないし！と思って、前向きにがんばってください ^^

PROFILE

No.2

氏名 ▶ S.O 年齢 ▶ 21 歳女

出身大学 ▶ 京都大学経済学部
環境経済学専攻

部活・サークル ▶ 競技チアリーディング

試験区分(席次) ▶ 大卒経済
(1~50/259)

併願状況 ▶ なし

趣味 ▶ ジョギング、散歩、お菓子作り

評価された点 ▶ 素直さ、吸収力

説明会等参加状況 ▶ 10 回程

人生の夢 ▶ 笑顔で、楽しむ！

<Destinations to Visit>

1日目:環境省

2日目:農林水産省

3日目:経済産業省

What Brought You to this Ministry?

「たくさんの人の当たり前の生活を守りたい」

私が国家公務員を目指そうと思ったきっかけは、自身の怪我でした。膝の怪我によって数ヵ月まともに歩けなくなったとき、“当たり前”の大切さを痛感しました。豊かな国である日本は、たくさんの“当たり前”が溢れている一方、そんな生活を脅かす課題も山積みです。私は、社会問題に向き合うことで“当たり前”の生活を支えることができる国家公務員の仕事に魅力を感じ、志望しました。

「環境を通じて、生活の土台作りを」

環境省創設の発端は、公害問題です。それから約40年経ち、環境省の役割は除染問題から気候変動問題まで、規模も地理的範囲も本当に幅広くなっています。それほどフィールドが大きな“環境”ですが、結局は人の生活に深く結びついています。言い換えれば、国民の健康や暮らしは環境に大きく左右されるため、当たり前の生活は環境に大きく依存するものだと思います。また、それは今生きている私たちの世代だけでなく、将来の世代に関わる重要な問題でもあります。

そんな“環境”を軸に私は仕事がしたいと思い、環境省を志望しました。

School Days

◇ サークル活動

競技チアリーディングをしていました。大学生活はチアなしでは語れない！というぐらい没頭していました(笑)。華やかなイメージとは裏腹に練習はきつかったですが、演技が完成したときの達成感、かけがえのない仲間存在は本当に何にも代え難いものです。本当にチアが大好きで、全力で取り組んだからこそ自分に自信が持てるようになりましたし、大学生活でこんなにも熱中できるものに出会えたことは幸せだなと思います。

どんな時でも笑顔でいること、体力的なつらさを絶対に観客に見せないこと、というチアの鉄則が試験や官庁訪問でも活かされたのではないのでしょうか…笑。

チアを通して、根性や体力、筋肉(笑)、負けん気は鍛えられたので、仕事でも活かしていこうと思います！

School Days

◇ ゼミ

大学では環境経済学のゼミに所属しており、3年次に「分散型電源としてのコージェネレーションシステムの推進」というテーマで共同論文を執筆しました。自分たちで問題提起をし、それに対する政策を考え、最終的には他大学とディスカッションを行いました。

論理的に物事を考えること、そしてメンバー全員の考えを共有し、全体として一つの意見を出すことの難しさを感じました。ディスカッションに関しては、普段から議論することに対する慣れが必要だと反省しました。論文の執筆もディスカッションも、私にとっては貴重な経験であり、大きく成長できたのではないかと思います。



▲ チアリーディングの大会にて

Preparation for the Examinations

【試験対策】

私は予備校を利用していました。予備校は情報やノウハウが蓄積されているため、効率的に勉強できました。

専門については、まずはマイクロ・マクロを固めました。科目は多いですが、基礎(マイクロ・マクロ)を理解していれば他の科目に応用が利く学問であることに加えて、専門は勉強すればするほど点数が伸び、二次試験対策にも繋がるので、かなりの時間を費やしました。

教養については、文章理解(英語)と数的処理を中心に勉強しました。この二つの分野でどれだけ点数を取れるかが鍵だと思います。知識分野はコスパが悪いので(笑)、得意科目のみに絞って対策しました。

【面接対策】

私は民間就活を全くしていなかったため、人事院面接が初めての面接でした。人事院面接・官庁訪問対策として私が気を付けていたことは、①志望動機や自己分析に手を抜かないこと②自分の言葉で相手に伝えること③自分が考えてきたこと・やってきたことに対して自信を持つこと④楽しむこと、です。

人事院面接は型に沿った面接なので、友達と練習をしたり、自分の言いたいこと、アピールしたいことを話の流れに乗せることを意識していました。官庁訪問に関しては、知識の量よりも、ある事柄について自分の考えを持ち、さまざまな人と議論することに重点を置いていました。

~Message to Test-Takers~

「後悔しないように、そして楽しむこと」

この時期は、多くの選択肢が目の前に現れると思います。同時に、自分自身と向き合える大切な時期でもあります。周りに流されず、たくさん悩んで、たくさん考えて、一番自分が納得のいく選択をしてください。そのためには、選択肢として公務員一本に絞るのではなく、時間の許す限り民間就活もして視野を広げ、たくさんの人と接してたくさんのことを吸収するということが大切だと思います。

そして、思い切り楽しんでください！試験勉強や将来のことを考えるとつらいときもあるかもしれませんが、ですが、どうせやらなければいけないのなら、メリハリをつけながら楽しみましょう！笑 気持ちでは絶対に負けないでください。

PROFILE

No.3

氏名 ▶ D.K 年齢 ▶ 27 歳男

出身大学 ▶

早稲田大学人間科学部(転部)→法学部

東京大学公共政策大学院

ソウル大学国際大学院(留学)

部活・サークル ▶ アジア法学生協会

試験区分(席次) ▶ 院卒行政(1~50/192)

併願状況 ▶ コンサル、ベンチャー、人材

好きな本 ▶ 柳井正『現実を視よ』

評価された点 ▶ 積極性

説明会等参加状況 ▶ 10回+インターン

モットー ▶ 克己復礼

志 ▶ アジアの時代を創ること

<Destinations to Visit>

1日目:環境省

2日目:厚生労働省

3日目:財務省(本省)

What Brought You to this Ministry?

「政策を構想し実現することを一生の仕事にしたい」

映画「桐島、部活やめるってよ」をご覧になった方はいますか？自分の高校時代は劇中のオタクたちのように、文化祭企画を実現させるために熱く走り回る日々でした。当時はそれが何であるか分かりませんでしたが、将来は、自分達の理想を実現するために行動できる仕事がしたいと思っていました。

その後、大学での学生団体の活動や大学院での留学を通して、日本とアジアの役に立つ仕事がしたいと思うようになりました。そして、環境政策の分野であれば、日本とアジア諸国の連携促進や、日本から世界をリードするような政策を打ち出すことができると考え、国家公務員、中でも環境省を志望しました。

「国益と地球益の追求、自由闊達な気風」

省庁の選択において重視したことは二つです。一つは、日本のみならずアジアや世界のために行動できること。もう一つは、自由闊達に新たな仕事を生み出していく気風があることです。

官庁訪問を通して、多くの方々からお話を伺い、各省とも大切な業務を担っており、魅力的な方が多いと感じました。その中で、環境を軸とした国づくりが、世界の中で日本が今後目指すべき方向だと思うようになりました。そして、環境省の人にも組織にも勢いを感じ、ここでなら、自分の性格を存分に活かして仕事ができると思いました。

私が考える環境省の良さは、自由闊達な気風があることです。しかし、これは、職員一人一人が担うべき責任が重いということでもあり、それは若手でも同じです。国家公務員や環境省職員として働きたいという思いを果たせなかった仲間のためにも、これからの仕事に全力で取り組みたいと思います。また、地方自治体から世界へと仕事の幅が広がっているのも環境省の魅力であり、第二外国語や様々な政策分野の知見も、楽しみながら身に付けていきたいと思っています。

Dream to be a professional

官庁訪問で、行政官として大切なのは、大局観、胆力、絆であると教わりました。良い仕事ができるよう、自分を高めていきたいし、人との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

School Days

「歴史問題から将来の夢、アジアの学生と語り明かす」

◇ 学業

留学先の韓国では、日韓の歴史問題を議論するゼミに参加しました。韓国人の教授や学生との厳しい議論を通して、大局観をもって問題の軽重を考慮することや誠実に相手と向き合うことの大切さを学びました。東アジア情勢が緊迫化する中で、中国や韓国の学生とアジア地域の課題や将来の夢を話し合えたことは、自分にとって大きな経験となりました。

◇ サークル

大学時代は、アジア10カ国に加盟国を持つ学生団体の運営に打ち込んでいました。他のアジア諸国の学生達の英語力や議論力や志の高さに感銘を受けつつ、自分も負けじと我武者羅に議論をしました。この学生団体の日本代表として各国の代表達と団体やアジア地域の行く末を熱く議論できたことや、外国人の友人・恋人を持つことができたことが自分の進路を形作りました。また、代表としての失敗も糧となっています。

◇ アルバイト

WEB サイトの企画・制作管理や、先輩が起業した携帯アプリ会社の営業等の手伝いをやっていました。また、短期間ずつですが、様々な民間企業でインターンシップを経験するように心がけていました。

Preparation for the Examinations

【試験対策】

公共政策大学院の学生で院卒区分を法律系選択で受験される方は、法科大学院の学生との競争を意識すべきだと思います。また、記述試験の対策は重要であり、早期から実際に過去問の答案を書ききる練習を積んでおくことをお勧めします。

政策討議課題試験については、民間企業への就職活動でグループディスカッションを経験しておくでしょう。

【面接対策】

官庁訪問前には、自分が訪問する省庁が所管する政策分野に限らず、幅広く日本が抱えている問題について議論しておくことをお勧めします。また、日本史や世界情勢について情報収集を行うことも、官庁訪問に限らず重要だと思います。更に、自分なりにあるべき日本の将来像を考えておき、それを官庁訪問で職員の方にぶつけてみるのも良いと思います。

官庁訪問期間中は、睡眠時間や栄養のバランスに気をつけつつ、議論を楽しむ姿勢が重要だと思います。また、職員の方との面接だけでなく、受験生同士の交流も、同じく大切にできると、楽しく、勉強になると思います。積極的な姿勢をみせることが大切です。

自分がやりたいことを考え抜き、世界も視野にできるだけ幅広く仕事を探して、思いっきり悩んで思いっきり楽しんで就職活動ができるといいですね。

~Message to Test-Takers~

「五度目の正直」

国家総合職試験は五回受験しました。最後は大学院を卒業し、精神的にも追い詰められた状況での受験でした。だから、この冊子を手にとった方で、遠回りや挫折した経験をもっている方には、その経験を公務に活かして欲しい、あきらめずに努力を続けて欲しいと思っています。

また、省や官民や国を超えた連携がなければ解決できない社会問題は多く、環境問題は、まさにそのような社会問題の一つです。なので、就職活動に臨む皆様にはできるだけ視野を広くもって頂きたいです。そして、世界と日本のあるべき姿について考えてみて欲しいです。最終的に、環境省職員や国家公務員になるかどうかに限らず、この冊子を手にとられた方と、より良い世界と日本を創るべく、共に仕事ができる日が来ることを楽しみにしています！

PROFILE

No. 4

氏名 ▶ T.G 年齢 ▶ 21 歳男

出身大学 ▶ 東北大学法学部

部活・サークル ▶ 模擬裁判実行委員会

アルバイト ▶ お茶屋(小売、卸)

試験区分(席次) ▶ 大卒法律(1~50/564)

併願状況 ▶ 国家一般職、
裁判所事務官
地方自治体

趣味 ▶ 潮干狩り、キノコ狩り、山菜採り

評価された点 ▶ 行動力

人生の夢 ▶ 次世代へのバトンタッチ

<Destinations to Visit>

1日目:農林水産省

2日目:国土交通省

3日目:環境省

What Brought You to this Ministry?

「今ある多様で豊かな社会や自然環境を次世代へ」

一番根底にあるのは、小中学生の時参加したユネスコのボランティア活動を通して得た、自然や地域の文化を守って行きたいという思いです。このことからさらに押し広げて、今ある多様で豊かな社会や自然環境といった様々な価値を次世代に引き継いでいきたいと考えるようになりました。

「環境という軸から広く社会にインパクトを与えられる」

そこでこれらの価値を守って行くためにどういったアプローチがあるかと考えたところ、「地域産業の活性化から」「環境から」という二つのアプローチがあるのではないかと思い至り、左記の省庁を訪問することになりました。

官庁訪問の中で、より広く社会にインパクトを与えられる=多様な価値を次世代に引き継いで行けるのはどの官庁かと考えた末に選んだのが環境省です。「環境から」のアプローチであれば、自然はもちろん都市住民の暮らしや海外の文化・社会といった価値も守って行けると考えました。

School Days

「モギサイに始まりモギサイに終わる」

学生生活のかなりの部分をサークル活動に費やしており、一日サークルの部室で過ごすことも多々ありました。

◇ サークル活動

模擬裁判実行委員会(以下モギサイ)に所属していました。モギサイは演劇の形で模擬裁判の公演を行う団体ですが、私はあまり劇の方に興味はなく、団体運営の方に興味があったため総務・財務という役職の仕事をしていました。この総務という役職はいわば他の役職の残りカスをやるような役職でしたが、サークルで新たに発生した問題の解決に当たったり、仕事を自分から探しに行ったりと団体運営に興味のある私にとっては天職だったと思います。仕事に対するこのような姿勢は環境省に通じる面があるのではないかと感じます。

◇ アルバイト

創業320年を超える老舗のお茶屋で配達と葬儀関係の卸のアルバイトをしていました。下請けにはつらいものがあります。(3割ピンハネ!)社会の厳しさを垣間見ました。

Preparation for the Examinations

「対策して臨めば怖いものなんてない！」

色々な公務員試験を受けましたが、択一は総合職試験が一番対策しやすいと思います。それだけにきちんと対策をしたか否かが勝負の分かれ目です。

【一次試験】

大学生協の公務員講座を受講していました。ですが授業よりもとにかく問題演習の質と量につきます。専門は過去問を回してとにかく判例を覚えることに集中しました。教養の知能系は年明けから継続して行い、知識系は3月から詰め込みました。

【二次試験】

最近の二次試験は一次合格者の半分も落とさないの択一がボーダーギリギリでない限り平均点を取れるくらいに対策すれば十分だと思います。私は講座の記述テキストの解答例を一通り読むことしかしませんでした。

人事院面接も普通にやればあまり心配する必要はありません。私は生協と学生同士で4回ほど練習しました。

【官庁訪問】

総合職を目指す学生で集まり内定を頂いた先輩と面接練習や勉強会を行いました。直前期には、志望省庁ごとに分かれて興味のある政策分野を取り上げ、プレゼンやディスカッションをしました。

【その他】

勉強は適度に！休むのも大事です。直前期でも週に二回は一日中家でダラダラしていました。



▲昨年の模擬裁判公演法廷シーン(私は照明を担当)

Importance of JOB-Fair

「説明会は大事！」

毎年秋から翌年の春にかけて東京をはじめ全国の主要都市で各省の業務説明会が行われます。これらの説明会は、非常に重要です。採用担当の方と実際に話して官庁訪問の前に顔見知りになっておくとは良いことだと思います。また何度も説明会に参加して初めて見えてくるもの(省庁のカラー等)もあります。

というわけでどの省庁を志望するにしても、説明会は積極的に参加することをお勧めします。各府省庁HPは要チェックです。

~Message to Test-Takers~

「勉強も大事だけど今しかできない経験を」

環境省の同期や職員の方と話すともみなさん非常に人生経験が豊富で、人間性に厚みがあると感じます。私自身もいろいろな経験をしておけばよかったと後悔する一方、残り半年の大学生活の中で今しかできない事をして人生経験を積まなければと決意を新たにしているところです。(主に旅行ですが…)

この冊子を手にする皆さんは試験勉強の真っ最中だと思います。勉強も大事ですが、ぜひ時間とお金の許す限りいろいろな社会経験を積んでください。社会経験を積むことで新たな視点や問題意識を得ることができますし、それはのちの官庁訪問で必ず役に立ちます。つらいこともあると思いますが頑張ってください。

PROFILE

No.5

氏名 ▶ M.K 年齢 ▶ 26 歳女

出身大学 ▶ 大阪大学法学部
同志社大学司法研究科

部活・サークル ▶ テニス同好会

試験区分(席次) ▶ 大卒法律
(151~200/564)

併願状況 ▶ 司法試験

好きな本 ▶
ミッチ・アルボム
『モリー先生との火曜日』

評価された点 ▶ 明るさ

人生の夢 ▶ 明るい家庭・明るい未来

モットー ▶ いつも笑顔

<Destinations to Visit>

1日目:環境省

2日目:文部科学省

3日目:なし

School Days

「まず、行動してみる。」

◇ 議員インターンシップ

市議会議員の方のもとで、政策立案に携わらせて頂きました。市民や市役所へのヒアリングや他の市の政策との比較等、地道な一つ一つの作業を通じて、政策が作られるのだと実感しました。生き生きと活躍される社会人の方と多く接することで、私自身の将来を考えるきっかけにもなりました。

また、議員インターンシップを通じて出会い、感銘を受けた社会人の方を講師に招き、学生400名を集め「学生塾」を開催しました。0から企画することは大変でしたが、学生にも好評で毎年開催されることとなり、“思い”が形になったと非常に嬉しく思いました。

◇ 学業

3年次から、司法試験に向け法律の勉強を始めました。大学の図書館の住民になりましたが(笑)、友人らと切磋琢磨してきた日々は、いい思い出です。

◇ カナダ留学

語学留学に仮託した楽しき旅行の日々でした。様々な国の方と友達になることで、偏見が少なくなり、またより日本を知ることができたように感じます。また、歩けば自然豊かな公園にぶつかるといふカナダに住み自然に癒され、自然の目に見えない力を感じました。

What Brought You to this Ministry?

「当たり前にあるものを当たり前に残したい。」

私は、環境について何か特別な知識があるわけではありません。ただ、近年の気候変動は、ゲリラ豪雨等の異常気象をはじめ、私自身も実感することが多く、世界中が直面する環境問題に正面から取り組みたいと考えるようになりました。

環境破壊は不可逆の性質を有し、環境省として予防的見地から環境問題に取り組んでいくことは非常に重要であると思います。現在、子供に未来の絵を描かせると、ビル群ではなく緑の多い街の絵を描くそうです。私も、微力ながら環境省の職員として、未来の子供たちに、当たり前にある自然を当たり前に残していきたいと強く感じています。

Preparation for the Examinations

「過去問を繰り返して解く。」

私は、法科大学院既卒であり司法試験と並行して勉強をしていたので、国家総合職としての法律の勉強は全く行いませんでした。ですが、法科大学院生であっても時間があれば、出題形式に馴染むために記述式も含めて過去問を1度解いておくと安心して試験に臨めると思います。

択一試験の中の教養試験は2月頃から始めました。現代文と数的処理は日頃から時間を測って過去問を解く練習を何度もしました。人文や社会科学は全く忘れていたので、涙ながら1ヶ月ほどインターネットの講義を詰め込んで聞き、すぐに過去問を繰り返し解きました。私は試験本番において、英語と数的処理で冷や汗を流し、直前に詰め込んだ人文等で救われたので、知識問題を疎かにせず勉強をすることも肝要だと思います。

人事院面接は、落ち着いてははっきりと受け答えすることができれば大きな減点になることはないのです、安心して自身の思いを述べれば大丈夫です。



▲スイス旅行で感動した絶景

Free Time

自然って良いですね。私は考え事するときは自然豊かな場所に行って徘徊します(笑)。頭がスッキリして不思議と良いアイデアが浮かんだりします。未知なるパワー！癒し効果！

試験勉強でストレスフルになるとと思いますが、気分転換に自然に触れる機会をもって、是非、長丁場の試験頑張ってください。

~Message to Test-Takers~

「簡単に諦めない」

私は司法試験を併願して受験しました。2つの試験は共通の科目も多くありますが、私自身の要領の悪さや始めた時期の遅さもあり、非常に苦戦しました。また、比較的年齢が高いので、官庁訪問で内定を頂くことができるか最後まで不安でした。今、この冊子を読んでいる方の中には、時間がない、情報がない、年齢が高い等、様々な不安を抱えている方も多いかと思います。しかし、「人事を尽くして天命を待つ」ということわざがあるように、今できる精一杯を行ったあとは「なるようになる」という心構えでいれば、自ずと道が開けるように思います。

最後に、法科大学院生に向けてです。法科大学院生が国家総合職を受けようとする場合、多くの方が自身のキャリア選択に迷いや不安を抱えていることと思います。試験期間中の私もその一人で、また官庁訪問で出会った法科大学院生も同じ気持ちでいるとお聞きしました。私が法科大学院生の方に行なってもらいたいことは2つあります。一つ目は、ここまで司法試験に向けて勉学に励んだことを誇りに思っていて欲しいということです。二つ目は、自身の将来像を新たに描くために国家総合職の説明会に参加して欲しいということです。省庁の雰囲気や合う・合わないということもわかりますし、何より幅広いフィールドで仕事ができる魅力をたくさん発見することができるので、非常に有意義であると思います。この2つの作業を行えば、官庁訪問の際、自信をもって面接に臨むことができると思います。

受験生の皆さん、長丁場ですが、健康に留意して、最後まで諦めずに頑張ってくださいね！

PROFILE

No. 6

氏名 ▶ S.M 年齢 ▶ 23 歳女

出身大学 ▶ 大阪大学法学部法学科
東京大学公共政策大学院(1 年)

部活・サークル ▶ 交渉学研究会
軽音サークル(ギター)

試験区分(席次) ▶ 大卒法律
(350~400/560)

併願状況 ▶ マスコミ・インフラ(学部 4 年次)
地方自治体

趣味 ▶ カフェめぐり・カメラ・
音楽(聴くのも演奏するのも)

評価された点 ▶ 熱い思い・芯の強さ・明るさ

人生の夢 ▶ 足跡を残す

<Destinations to Visit>

1日目:経済産業省

2日目:環境省

3日目:なし

What Brought You to this Ministry?

「世界に誇れる元気な日本へ」

国家公務員を目指し始めた頃は、私は外務省志望でした。私自身ハーフだということもあり、日本と他国との架け橋になればいいなと、幼いながらに思ったのがことの始まりです。

国内に目を向けたのはリーマンショックや3.11がきっかけ。混乱に陥る母国を見て、なんとかして元気な日本を取り戻したい!と思うようになりました。その思いを軸に、日本の経済基盤を支える経済産業省と、日本の得意分野である「環境」を切り口に新しい風を起こす環境省の2省で迷っていました。

環境省は、自然環境を維持するという「守り」の省であると同時に、環境というフロンティアをうまく活用して、環境ビジネスや地域活性化に取り組む「攻め」の省でもあります。世界がイノベーションを求め続ける中、日本が環境をヒントに地域のポテンシャルを引き出し、地域と都市の対立構造を越えた持続可能なオールハッピーを生み出すことが出来たなら。そして世界に範を示し、持続可能な世界秩序形成をリード出来たなら。そんな世界に誇れる元気な日本を目指すことが出来るのが、環境省の魅力だと感じました。お気づきの方もいるかもしれませんが…そう、環境省も私もベンチャー気質なのです!(笑)

「一人ひとりの思い」

迷った末に環境省に決めた最大の理由は、一人ひとりの職員さん方の働き方が素敵だったから。それぞれが自分の「正義」に従って、「人のため」を想って働いているところに惹かれました。

おそらくそれは、環境省の立ち位置や組織風土によるところも大きいのだと思います。確かにまだまだパワーは不十分だけれど、業界団体にへりくだることなく、未来を見据えて理想を語ることに妥協しないことが求められているし、個々の考えや思いを尊重する雰囲気があり、入省時の熱い思いを忘れずに&正義感を曲げずにがんばり続けることが出来ると感じました。

きっと心が折れそうになることもあるだろうけれど、私自身、初心を忘れず、自分に嘘をつかずに、社会に価値を生み出し続けられたらいいな、と思っています。

「最後の砦」

そして、大切な役割がもう一つ。市場の失敗、政府の失敗…その最後の最後に弱者に寄り添い続けられるのは、環境省だろうなと。そしてそれが本来の行政の役割だと、私は思います。

School Days

「やりたいことは全部やる！」

◇ サークル活動

学部1年生の頃は、交渉・軽音・クラシックギター・美術部と、4つのサークルを掛け持ちしていましたが(笑)、2年生以降は交渉と軽音に絞りました。

交渉サークルは向上心の強い人間の集まりで、大会での優勝に向けて全力でぶつかり合い高め合うことができました。私は学部3年と4年の時に、交渉・仲裁の全国大会に出場しました。大会準備期間の10月・11月は毎年、連日徹夜でしんどかったけれど、仲間と一つの目標を目指して昼夜問わずがんばり続けるという貴重な経験ができました。

一方私が所属していた軽音サークルはとても包容力があり暖かくて、バンドメンバーに限らずみんなとなると楽しくて落ち着く、癒しの場でした。特に卒業まで組んでいたガールズバンドのメンバーは一生の友達です。両方のサークルを行き来して、うまく息抜きしながら色々なことにチャレンジできた気がします。

◇ アルバイト

ファストフード、キウイの試食販売、個人経営の居酒屋、光回線の販売支援、携帯のお姉さんなど、色々なバイトを経験しました。何気なく使っているサービスの提供者がどんな気持ちで働いているか、自分で体験すると、ちょっとだけ人に優しくなれます。それだけに限らず、色々な意味で人生の肥やしになるなあと思います。ちなみに今はベンチャーコンサル企業でアルバイトしています。

◇ インターンシップ・学業

議員インターン(再エネ推進の国会議員さん)と北電のインターンに参加したことが、エネルギー政策に興味を持つきっかけになりました(そしてそれが、「環境省ってそんなこともやってるのか！」と気づききっかけに)。インターン先は旅行要素も大事。北海道美味しかったです(笑)。学部時代は行政学ゼミに所属していたお陰で、公務員を目指すゼミ生が多く、教授や先輩にたくさん進路相談に乗っていただきました。

Preparation for the Examinations

「息は抜かずに、今しかできないことをやる。」

【試験対策】

試験勉強で一番怖いのが、勉強した気になってしまうこと。学部4年次はそれで失敗したので、勉強時間をストップウォッチで測って記録するようにしました。また、息は抜き始めるとキリがないので、「ちょっと息抜き」は禁止に。そのかわり、今しか出来ない、どうしてもやりたい遊びやイベントだけは優先するようにしました。

【面接対策】

人事院面接は民間就活の延長だと思います。自己分析と志望動機がしっかりしていれば問題ありません。官庁訪問は、環境省では、思いの強さやまっすぐさが見られているように感じました。

~Message to Test-Takers~

「人生の大半を、何をして過ごすのか」

日本で働き、生きるということは、これから先の人生の大半を、仕事をして過ごすということです。職場を選ぶということは、これからの人生の大半を、何をして過ごすかを選ぶということです。だからこそ、皆さんには、自分の人生をかけたいと思える仕事を選んで欲しいと思っています。これから40年働く職場です、40年間後悔し続ける事態だけは絶対に避けて欲しいです。40年間働いて、何を生み出し、遺したいのか。その答えが、みなさんを天職に導いてくれます。

これを読んでいる皆さんなら、きっと答えが出せるはず。霞ヶ関でお待ちしています。がんばって！

PROFILE

No.7

氏名 ▶ T.M 年齢 ▶ 24 歳男

出身大学 ▶
京都府立大学文学部歴史学科
京都大学公共政策大学院

部活・サークル ▶
サッカー部、雑誌編集部など

試験区分(席次) ▶ 院卒行政(1~50/159)

併願状況 ▶ 手当たり次第たくさん。特に再
エネ業界

好きな本 ▶ 渡辺京二『逝きし世の面影』

評価された点 ▶ 吸収力

説明会等参加状況 ▶ 3 回くらい

志 ▶ なつかしい未来

<Destinations to Visit>

1日目:総務省

2日目:環境省

3日目:農林水産省

What Brought You to this Ministry?

「限界集落をなんとかしたい」

志望動機はオリジナルなものだと思いますし、ましてや内定者などニート同然です。とにかく、僕のページは動物図鑑見るぐらいの気持ちで読んでください。

僕は限界集落に関心があります。実家が田舎であること、日本全国47都道府県を旅したこと、被災地の現場で話をきいたことなど、直感的に心動くものがありました。

限界集落はいま、行財政コストの点から撤退縮小すべきという議論が盛んです。「極点社会」論も登場しました。でも僕は、そういった立場ではありません。数字に載らない大切なことがあると思っています。

就職活動は本当に迷走しました。現場に入るか大きな仕組みを動かすか、大きな組織か鶏口牛後か、すぐに関わるかまずスキルをつけるか、お金はいいのか、どこに住んでどんな生活がしたいのか、昨年の官庁訪問は失敗に終わり、留年しました。

悩みぬいた結果、環境というアプローチが最も有効で、かつ社会全体のためにもなる、と考えるようになりました。観光や六次産業化はすべての地域・集落で成功するわけがありませんが、環境という視点はそれを乗り越える可能性があると思います。僕は「決断力」「選択の科学」のような本を読んだりと激しく血迷った時期もあったぐらいですが、これはもう「決め」の問題です。

そこで再エネの会社から内定をもらい、二度目の官庁訪問に向かいました。地方に何度も赴任できる総務省がいいとずっと思っていたのですが、官庁訪問を通じ環境省で働きたいと、確信を持って思うようになりました。なぜなのか、正直言うとうまく説明できません。具体的に何を話したのかは別として、とにかく深い話をしたと思います。何か一つ挙げるとすると、原子力規制庁設置や除染業務が環境省の所管になった時の決意を伺った時です。公務員としての矜持や、その泥臭さたるや、僕が日頃から限界集落で感じていることに完全に合致したと感じました。でもそれは皆様が、官庁訪問にて直接その話を聞かないと、やっぱり分からないと思います。その端緒を見つけるために説明会で根掘り葉掘り質問すると良いと思います。

長くなりました。繰り返しますが、なんやねんこいつ偏狭な奴だな、ぐらいに思ってもらった方がいいです。今の自分なんてカスカスのお好み焼きです。でも僕の勝負はこれからなので、ブタエビイカ牛すじ油かすもちチーズトッピングぐらい具沢山なお好み焼きを目指して、ケツの穴引き締めてがんばります。みなさんも一緒に競争しましょう！

School Days

僕の学生生活に興味がある人がいる可能性は著しく低いと思いますが、嗜好が合うことを期待します。

◇ 学業

学部では、文学部歴史学科で、大平正芳政権の総合安全保障について卒論を書きました。院では一気に反転して限界集落問題について研究しています。

インターンは官庁、コンサル、独法など5つぐらい。

◇ 部活・サークル

サッカー一部と雑誌編集部です。京大公共で雑誌を作っていて、藪中三十二さん、福山哲郎さん、京都市教育長といった方々に取材する機会を得ました。是非グーグル先生で「公共空間」と検索してみてください。

僕の学業以外の生活のメインはまちづくり的な何かです。ボランティアでもあり、ワークショップでもあり、激しい飲み会でもあり、木の伐採でもあり、餅つきでもあります。京都市左京区のまちづくり、特に限界集落に関わる活動をしています。このおかげで、まちの女性を口説くことはとても得意になりました。経験豊富で野良仕事に精通する魅力的な70・80歳の女性です。

あとバイク大好きです。ツーリング！

◇ アルバイト

前はお好み焼き屋、今はスーパーで朝から野菜とか牛乳とかを並べまくる仕事をしています。

Preparation for the Examinations

【試験対策】

区分は院卒行政、かつ政治国際で、論述は公共政策・政治学・行政学を選択しました。かなりキワモノだと思います。試験対策は根性と運だと思うので、自分が勉強していて楽しい科目が多くなるように選ぶと良いと思います。

【面接対策】

人事院面接・就活と官庁訪問は別物だと思います。

そもそも面接は、その人を見極めるためにするものだと思うのですが、その人自身の中身は、うまく伝えることでしか評価されません。前者は如実にその傾向があると思います。僕は面接で手短かに、かつ相手が欲がっている言葉を話すのが苦手だったので、本当にたくさん落ちました。皆さんはあまり心配ないと思いますが、苦手な人はかなり練習が必要です。自分の言いたいことというよりも相手が何を聞きたいのかを話す必要があります

他方で官庁訪問は一回の面接も長く、回数も多く、何より職員さんの懐が広いので、自然と自分の素や根っこの部分が出ます。なので、取っ掛かりとして簡潔に言いたいことをまとめるぐらいで、後は日頃から考えていることで会話することになります。それは対策というレベルの話ではないのですが、敢えて言えば友達と呑んでたくさん話し合う、ということなのかなと思います。そういう意味で官庁訪問の面接は自然体で臨むのが良いのではと思います。

~Message to Test-Takers~

「自分と向き合う」

公務員にせよ何にせよ、進路選択は人生の分水嶺だと思います。僕は留年して余分に1年やってようやく決めることができました。辛いことも多かったですが、たくさん迷って良かったと思っています。

進路を決めることは、本当に自分と向き合う作業だと思います。周りにも影響されますし、自分がどんな人間かなんて分かるわけがありません。自己分析をやりすぎると頭がおかしくなります。でも、それは必要な過程なんじゃないかと考えています。考えて考えて迷って彷徨って、最後は勇気をもって「決め」です。考えるときには必要かもしれませんが、ロジックとかではないと思います。何度も言いますが最後は「決め」の問題です。どの選択をしてもそんなに変わらないと思います。ただ、決める前にたくさん考えて迷って自分に向き合った方が、決めた後にブレないと思います。偉そうに書いていて恐縮ですが、僕も本当に大事なものは決めた後です。どの立場にせよ、一緒に日本を良くしましょう！

PROFILE

No. 8

氏名 ▶ N.O 年齢 ▶ 22 歳男

出身大学 ▶ 東京大学農学部
森林環境資源科学専修

部活・サークル ▶ 軟式野球サークル

試験区分(席次) ▶ 大卒経済
(101~150/259)
大卒教養
(1~30/92)

併願状況 ▶ なし

好きな本 ▶ ブラックジャックによるしく

評価された点 ▶ 誠実さ

説明会参加状況 ▶ 6 回程度

人生の夢 ▶ 幸せな家庭を持つ

<Destinations to Visit>

1日目:農林水産省

2日目:環境省

3日目:国土交通省

What Brought You to this Ministry?

「子供に誇れる仕事がしたい」

森林科学専攻ということで、環境や林業といった観点から仕事に携わりたいと思い、農水省と環境省で最後まで迷いました。環境省で扱う対象には、水や大気、生態系など一度破壊してしまうと元には戻せないようなものが多くあります。それらを守り次世代により良い環境を伝えることが出来る仕事に魅力を感じ環境省を選びました。民間や他省庁、どんな仕事も間違いなく重要で誇れる仕事ですが、環境省の業務は曇りなく、自分の子供に胸を張って話せる仕事であると思えたことが決め手になりました。

また、環境省の魅力として「環境」という軸で横断的に活動できる点が大きいです。低炭素社会のためのまちづくりから再エネに至るまで幅広く対象にできるという点も環境省の良さだと思います。

School Days

「割とのびのびとした学生生活を送りました」

◇ サークル活動

サークルでは野球をやっています。合宿係で大きい合宿の幹事をやったことはいい思い出になりました。野球だけでなく私生活でも色々関わられる人たちがいて、大学生活の半分はサークルといっても過言ではないほど楽しんでいます。

◇ 学業

3年次から農学部で森林科学を学んでいます。知らない知識を吸収する新鮮さや、実際に演習林に行くフィールドワークが非常に多いこともあり、純粋に楽しんでいます。スズメバチに刺されたり(結構痛い)、ヒルに血を吸われたりとなかなかサバイバルな実習ですが、終わった後の達成感と作業後に同期と飲むビールの味は格別なものでした。

Preparation for the Examinations

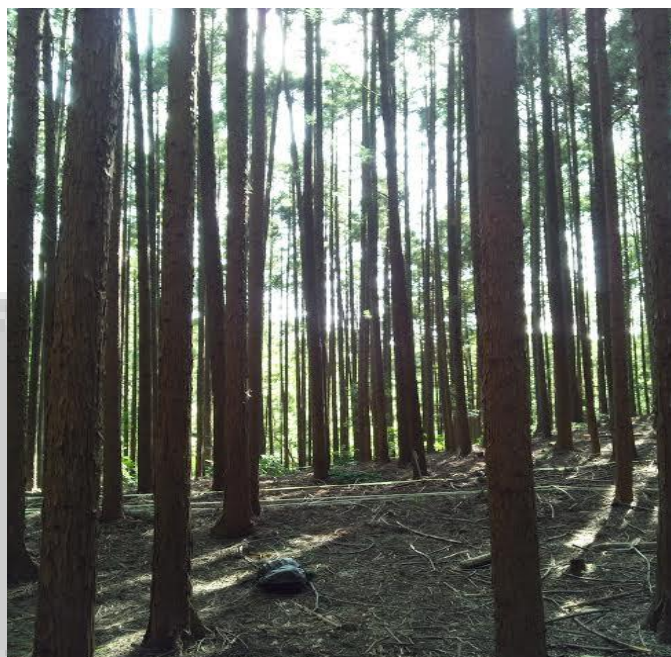
「自分のペースで続けることが大事だと思います」

【経済区分】

ひたすら択一の対策をやっていました。ミクロ・マクロ、財政学を年内に固めた方がいいと思います。僕はミクロ・マクロばかりやっていて直前期にほとんど余裕がない状態になってしまったので、財政や経済政策は3月までに一周はしていた方がよかったと思います。二次の記述は、わかったつもりでもいざ文章で説明しようとするとうまくできなかつたりすることがあるので、面倒さげらずしっかり紙に論述答案を作成する練習をするとういと思います。

【教養区分】

人文や社会科学等の暗記分野を1ヵ月くらい前から詰め込んでいけば大丈夫だと思います。数的処理は日ごろから触れておくと、本番でも頭がうまく回るような気がしました。二次のプレゼンについては、鋭い質問に対し咄嗟にうまく答える力も見られているように思います。なので、時間を守りわかりやすくプレゼンすることはもちろん、難しい質問が来てもどっしり構えて頑張って切り返すように心がけた方がいいかもしれません。



▲演習林のヒノキ人工林

Advice

迷った時は直感で決めるといいと思います。官庁訪問でどの省に行くか迷った時は、自分がなにをしたいか、どういう職場で働きたいかを考えていったら、なんとなく見えてくるものがあるはずです。

また、勉強ばかりしているとどうしてもストレスがたまりがちになるので、ストレス解消も忘れないようにすることをお勧めします。

~Message to Test-Takers~

「今まさに人生の岐路に立っています」

これは、僕が父から言われた言葉です。試験勉強や官庁訪問中にはつらくなることや気持ちが切れることもあると思います。そういう時に、人生の岐路に立っているんだと思うとやる気が出るかと思います。もちろん休息や息抜きも必要ですが(笑)

偉そうなことを言えるほど立派な人間ではないのですが、この1年がみなさんにとって実りある期間になることを祈っています。頑張ってください！

PROFILE

No.9

氏名 ▶ S.M 年齢 ▶ 21 歳男

出身大学 ▶ 早稲田大学 政治経済学部
経済学科

部活・サークル ▶ 登山サークル

試験区分(席次) ▶ 大卒経済
(1~50/259)

併願状況 ▶ 地方自治体
政府系金融機関 2 社
コンサル 1 社・林業 1 社

好きな本 ▶ 井上靖『蒼き狼』

評価された点 ▶ 信頼感・環境省への熱意

人生の夢 ▶ 会ったことないひ孫に
尊敬されたい！

モットー ▶ 現実を生きる

<Destinations to Visit>

1日目:環境省

2日目:経済産業省

3日目:財務省(本省)

What Brought You to this Ministry?

「環境問題に興味がありました」

環境省には、もともと環境問題に興味があつて入った人もいれば、そんなに興味はなかったけど雰囲気魅かれて入った人もいます。僕はもう、単純に環境問題を解決したいと思って環境省を志望しました。理由は3つあります。

1つは、僕が小学生の時に抱いた恐怖心です。もし地球温暖化仮説が本当ならば、いずれ人間は地球上で生きていけなくなるのか！そしたら今いろんなところで頑張っている人たちの努力は全て水の泡になってしまうのか！なんてこった！という思いは今でも感じています。

2つは、時代を変える仕事になるのかもしれないという勝手な期待です。20世紀までは、物の豊かさを追い求める代わりに、それ以外の豊かさ(地域愛、家族愛、文化、そして自然)は諦めてきました。21世紀は、どちらも追い求める貪欲な時代になったらいいなと思っています。その足掛かりとして、環境と経済が両立できる社会を環境省で目指していきたいです。

最後は、将来どんな大人になりたいか、で決めました。子供に胸を張って自分の仕事のことを語り、年をとっても目を細めて地球のことを考えて、未来のことをあれこれ妄想しながら死んでいきたいと思っています。

School Days

「典型的な私立文系の学生でした」

3年の10月まで、特に進路のことも考えずに気ままな学生生活を送っていました。

高校までは勉強と剣道しか知らず、自分薄っぺらいなと思い、「そこに山があるから」山に登るという意味不明な集団に加わったら面白そうだと始めた登山サークルが、学生生活の軸でした。あの絶景と愉快的仲間たちは一生の宝です。この世に絶対なんてないと言いますが、そこに絶対はありました(中2)。特段インターンやボランティアなどはしませんでした。

あとは時々海外に行きました。1年生のころはミクロネシアのヤップ島という島(石貨で有名)に2週間ほどホームステイしました。少なくともお金が幸せの絶対条件ではないことを肌で覚えました。2年生の時には、馬乗りたい！と思ってモンゴルに行きました(奔流中国)。馬と接することで、人と自然との関係についての考え方が深まりました。詳しくは直接！

Preparation for the Examinations

「焦ったもん勝ち」

公務員試験を受けようと決心したのが3年の10月中旬でした。周りに公務員試験を受ける人がいなかったのので、確実に自分が一番遅いスタートだと思い込み、めちゃくちゃ焦ったと同時に、燃えました。おりゃーって。ごぼろ抜きやーって。結果的にこの焦りがなければ僕は受かってなかったかなと思います。本当はこの時期から始めるのは特に珍しくないみたいですが。

【予備校】

公務員志望の友達がいない僕としては、さすがに完全独学は心細いということで、情報収集兼ペースメーカーの意味で予備校に通うことにしました。僕が通っていた予備校のゼミは、基本独学で問題演習は教室でやるみたいなスタイルで、一番効率が良かったかなと思います。

【一次試験】

数的処理と経済(と経営)を完璧にすれば合格点に行くので、10月から試験直前までその2つだけやっていました。直前期は時事にも力を入れました。他はほぼノータッチでした。

【二次試験】

3月ごろに軽く触れ、一次試験の合格発表が出てから本気でやりました。官報で試験委員をチェックして、委員さんたちの著作を買い漁って読みまくりました。

【人事院面接・官庁訪問】

面接対策としては、人と話すことが一番重要。試験勉強から解放されたその日から、リハビリも兼ねてなるべく多くの人と会うことを勧めます。人との会話を盛り上げる経験を多く積むべき。その中で自分の長所と志望動機を練っていきましょう。キャリアセンターおすすめ。

Free Space

「暗黒期」

これまで書いた感じだと、10月から試験まで短期決戦だということでノンストップで走り抜けたように思うかもしれませんが、そんなことはありませんでした。ちょうど2月の前後1ヵ月半くらい、ぜんぜん勉強に手が付きませんでした。こんな苦しんで勉強するほど、国家公務員って魅力的か？苦しんで勉強して受かった先が残業ばかりの生活って、俺アホちゃうか？そもそもこれからは技術や専門知識が問題を解決していく時代なんだから、俺大学院行って博士号狙ったほうがいいんじゃないか？そもそも前は会社作りたいうってなかったけ？俺は何がしたいんやー！という状態でした。こうなったらもう思う存分悩み苦しむしかないです。悩めるというのは就活の数少ない良いところですよ。そして、大抵はいくら悩んでも解決しないから、選択肢を減らさないように行動し続けることです。未来の自分のほうが、頭がいいと信じ、選択は未来の自分に任せ、今は目の前のことに全力を尽くす。これが暗黒期を抜け出す唯一の方法かと思います。



▲八ヶ岳より。筆者左。向こうに見えるは富士山。

~Message to Test-Takers~

「人生、よくわからんけど大丈夫！」

まさか環境省に入れるとは思ってなくて、4月ごろゼミの教授に相談しました。そしたら海外の大学院を紹介してくれて、よっしゃ試験落ちたら修士として海外留学して経済学の博士として環境経済学の研究者になろうと考えていました。でも結果、環境省に拾っていただきました。人生今を大事に生きていけば勝手に進路は決まっていくので、今を大事に！！

PROFILE

No.10

氏名 ▶ Y.I 年齢 ▶ 27 歳男

出身大学 ▶ 東北大学経済学部経済学科

部活・サークル ▶ 学部生支援団体
某野球団応援サークル
学生による地域活性化団体

試験区分(席次)▶大卒法律(501~550/564)

併願状況 ▶

- ・学生時代:金融、インフラ、メーカー
- ・今回:地方自治体、国税専門官
大学法人、裁判所一般職、国家一般職

評価された点 ▶ ギャップ萌え、熱い思い

説明会等参加状況 ▶ 4 回

モットー ▶ 挑戦すること

バイブル ▶ スラムダンク

<Destinations to Visit>

1日目:環境省

2日目:文部科学省

3日目:人事院

What Brought You to this Ministry?

「誰かの声を形にする仕事に携わりたい」

前職での経験と東日本大震災でのボランティア活動を通じて誰かの声を形にする仕事に携わりたいと強く思いました。その中で、国家公務員は多方面からの声を集約し、社会の枠組みを作っていく仕事であると考え、自己の思いが最も高い水準で実現できると思い、国家公務員を志しました。また、前回の就職活動時には、社会貢献ができる業界と考え、就職活動をし、就職をしました。しかし、仕事を通じて社会貢献といっても一つの企業では限界があり、本当の意味での社会貢献をするには公務員になることが一番なのではないかということも感じました。

「紆余曲折、遠回りをしてたどり着いた場所」

私のプロフィールを見て頂けると分かると思いますが、いろいろと紆余曲折、遠回りの人生を歩んでいます(笑)。こうした人生の中で、自分自身が一人で生きているのではないこと、多くの人々に支えられて生きていることに気づかされました。そして、今度は支えてくれた人たちに恩返しをしたい、多くの人々を支えていきたいと考えるようになりました。

その中で、環境省の仕事には、環境行政の運営を通して、現在の人々の声を集約し形にしていくのみならず、将来世代の声なき声も拾い上げ形にすることが求められています。まさに現在から未来にかけての多くの人たちを支える仕事です。私は、残りの人生を捧げられる場所はここにしかないと思い、環境省を選びました。



▲東日本大震災で津波によって内陸部まで運ばれた船
▲津波後3年経っても何も無い陸前高田

School Days

「いろいろなことにチャレンジしていました」

◇ 学業

環境経済学のゼミに所属していました。「教室だけではなく、現場で多くのことを学んでほしい。」そんな教授の意向から、原子力発電所や北海道でのエコツアー、エコフェスタでの環境教育に参加しました。この経験により机上の学習だけでは学べない多くのことを学んだと感じています。

◇ サークル

学部生支援団に所属し、既存業務の拡大と新規事業に取組み、団体の改革を行いました。また某野球団応援サークルや地域活性化団体の立ち上げに携わり、学生の立場や視点から、地域や社会にどのように貢献できるかを考え活動をしていました。この活動を通して、多くの人を巻き込んで一つの目標に向かって行動することの苦労や楽しさ、やりがい等多くのことを学ぶことができました。

◇ アルバイト

①生活費や学費を工面する、②社会勉強をする、この2点から多くのアルバイトに従事していました。スーパーの品だし・レジ打ちや塾講師、家庭教師、学校事務、治験、電器量販店の改装などなど上げだすときりがありません。様々なアルバイトを通じて、多くの人と出会い、その人々の仕事観や価値観を学ぶことができ、自分自身の視野を広げることができました。

Preparation for the Examinations

【試験対策】

私は転職組であり、かつ高齢受験者であったため、背水の陣で試験に臨んでいました。そのため、最終的な目標は総合職試験に合格することでしたが、他の試験種にも対応できるよう試験対策をしました。年内に総合職以外の試験種に対応する為の専門科目を網羅的に学習し、年明け後、教養科目と総合職対策を行いました。やはり、総合職対策は早めに早めに行うことをお勧めします。言い訳に聞こえると思いますが、私自身、様々な事情があったことに加え、試験対策が甘かった結果、試験は失敗しました。みなさんは私を反面教師に早め早めに計画的に学習をすることをお勧めします。

【面接対策】

官庁訪問において、細かい政策の知識は必要ないと思います(省庁によっては求められるところもあるかもしれませんが…)。省庁が抱えている課題や方向性を幅広く把握し、それらに対して自分だったらどう考え、どう行動するのか、自分自身のビジョンのようなものを持っていることが大切だと思います。

また、飾らずに自分の言葉で考えや思いを表現し、伝えることが大切だと思います。そのためにもこれまでに学んだことや経験したことを整理しておくといいと思います。

最後に、月並みですが、官庁訪問を楽しんでください。楽しむことがいい結果を呼び込むことに繋がると思っています。こんなにも、短期間で多くの新たな出会いがあり、視野が広がるチャンスはそうそうないです(・ω・)。

~Message to Test-Takers~

「後悔のない選択を」

就職活動は「今後約40年の人生を選択すること」といっても過言ではないと思います。それゆえ、就職活動はとて難しいものだと思います。これまでに学んできたこと経験してきたことをよく整理し、自分が残りの人生を捧げて何に取り組みたいのか、または何ができるのかをよく考えてください。そのためにも、国家公務員や特定の省庁に固執することなく、民間企業や他省庁、他公務員の説明会等に参加し、自己の見聞を広げることをお勧めします。そして、納得した上で環境省を選択してもらえると嬉しいです。

PROFILE

No.11

氏名 ▶ K. S. 年齢 ▶ 23 歳男

出身大学 ▶ 名古屋大学法学部

部活・サークル ▶ 陸上競技部
某ボランティア団体

アルバイト ▶ 塾個別指導英語科指導員

試験区分(席次) ▶ 大卒法律(1~50/564)

併願状況 ▶ 民間企業、地方自治体 etc.

好きな本 ▶ 新渡戸稲造『武士道』

評価された点 ▶ 安定感、国際感覚

人生の夢 ▶ 視野の広い人間に

モットー ▶ 勝って驕らず、負けて腐らず

<Destinations to Visit>

1日目:外務省

2日目:環境省

3日目:財務省(本省)

What Brought You to this Ministry?

「より良い環境づくり、よりニーズに合った制度運営を」

志望の契機は、ボランティアでの経験です。単純ですが、社会的に弱い立場にいる人々が自立できるような環境を作りたいと思うに至りました。しかし、ボランティアや企業ではその影響は限定的であり、他方、法曹は、重要な職だが、事後解決にとどまり、根本的解決につながらないのでは?と考えました。そこで、根本的な解決を図るには、環境づくり・制度運営に携われる国家公務員総合職が最も良いと考え志望しました。

「視野を広くするため、国政を鳥の目・虫の目・魚の目で見る」

高校時代の経験から、英語を使い視野を広く持つことへの憧れを抱きました。そのため、国政を広く俯瞰できる、外務・環境・財務を志望するに至りました。その後、官庁訪問にて、国際レベルの議論は国内での調整あってこそということを知り、環境・財務に絞りました。また、第三者的な視点ではなく、一当事者として、問題に取り組みたいとも考えたため、環境省を志望しました。

環境という一つの分野でも、その政策手法には様々な切り口があり、その深さも魅力の一つであると感じました。さらに、職務について一番熱く語ってくださったのも、環境省の職員の方々でした。

School Days

◇ 部活動

高校・大学共に、陸上競技部で短距離パート(100m、200m etc.)に所属していました。高校時代は、男子部キャプテンを務め、顧問の理不尽さにも耐えながら(笑)、部をまとめてきました。もちろん体力もついたので、官庁訪問ではバテることなく過ごせました。

◇ 学業:国際法ゼミ(水島朋則教授)

国際法模擬裁判大会に出場しました。主権の問題から環境問題まで幅広いテーマを扱い、英語で書面を作成、弁論を行いました。夜を徹して論文を読み、他のゼミ生と意見を戦わせる等、1つのことにこれほどにまで時間を割くこともなかったので、非常に鍛えられ、また楽しくもありました。英語も学べたので、教養試験のための勉強は全くしませんでした。

School Days

◇ インターンシップ

2種類の団体にインターンに行きました。

1つ目の団体は、日本国内における国際協力をする財団法人でした。ここでは、実際に外国の方々(この時は中国の方)と交流することができ、自分の海外への憧れがより一層増しました。たまたまこの際のテーマが環境への配慮だったこともあり、環境行政の一端に、また行政との違いに触れることもできました。

2つ目の団体は衆議院議員事務所で、政治の側から見た行政の姿を見ることができました。この経験は非常に勉強になり、また刺激にもなりました。また、電話取りやマナー、コミュニケーションの取り方も学べました。

どちらのインターンシップも、環境に直接かかわることは少なかったですが、大学生活では普段と異なるフィールドに出るという経験はあまりありません。時間はあると思うので、学生のうちにできることならなんでもしておくべきと思います。



▲フィリピン、ネグロス島で植樹したマングローブの苗

~Message to Test-Takers~

「ハートで走れ! Next One!」

現状に満足せず、次の一手を常に考えて行動して欲しいと思います。私は、勉強の先に就職が待っており、単に勉強するだけでなく、様々なことを経験することがその後の人生を豊かにすると考え、行動してきました。就活の際には、悩むことも多いと思います。私自身も、一度就活に失敗し、大いに悩みました。しかし、「これでいいや」と妥協せず、悩みぬき、次の一手をどうすべきか考えて行動して欲しいと思います。偉そうなことを言うようですが、参考になれば嬉しいです。

Preparation for the Examinations

【国家公務員総合職試験(大卒法律区分)】

年明けから勉強し始めるも、勉強量の少なさが一次試験で露呈してしまいました。マーク式の教養、特に数的は、年明け前から、勉強しておくと思いしました。

マーク式専門は、法律既習であったので、公務員試験六法を熟読すれば十分。有名判例は、記述対策として、原文を読んでその論理と定義等の言い回しを覚えるよう心がけました。あとは、1つの問題集を何回も解いて、頻出の問題は解けるようにしていました。記述は、専門・政策共に、模試を受けて実際に添削を受けた程度です。

【人事院面接・官庁訪問】

私は、平成25年度の夏の官庁訪問で失敗しました。原因の一つに、自己分析の不徹底があります。自分が行ってきたことの意味付けや、自分の考え方を知るためにも、人事院面接や官庁訪問のためにも自己分析を一度しておくと思いします。また、勉強に余裕のある方は、民間企業の選考を何社か受けてみることをお勧めします。民間志望の学生と話すのも勉強になることが多かったです。

待合室での受験生同士の会話が、その後の人事・原課面接で生きることもありました。未来の同期になるかもしれないため、積極的に会話すべきと思います。

官庁訪問では受験生側から質問することも多いので、質問を考えながら職員さんのお話を伺うことができるようにしておくことが必要かと思ひます。私は、実際に働いている職員の方の話を直接伺うことのできる機会も少ないので、官庁訪問を楽しみ、勉強させていただく気持ちでいました。

PROFILE

No.12

氏名 ▶ Y.F 年齢 ▶ 23 歳男

出身大学 ▶ 神戸大学法学部
京都大学公共政策大学院

部活・サークル ▶ ワンダーフォーゲル部

試験区分(席次) ▶ 大卒法律
(51~100/470)

併願状況 ▶ インフラ、金融

趣味 ▶ 登山、ゲーム

評価された点 ▶ 度胸

説明会等参加状況 ▶ 0 回

モットー ▶ 一つの分野を究める

<Destinations to Visit>

1日目:農林水産省

2日目:文部科学省

3日目:環境省

What Brought You to this Ministry?

「魅力あふれる日本を永遠に持続発展させたい」

僕は、元々官僚を志望していたわけではありません。ただ、法科大学院の練習のつもりで受験した国家総合職試験の合格と官庁訪問での失敗を受けて改めて何を実現したいのかを考えました。そして、僕は日本が大好きで、日本が将来にわたってあり続けてほしい。そのために、今山積している構造的な社会問題を解決しなければならないと強く感じるようになりました。

「日本の緑あふれる国土を守りつつ日本を発展させたい」

僕は、今までの経験から、環境には良い側面と悪い側面の両方があると感じています。大学生の時所属していたワンダーフォーゲル部で、3000m級の山頂で見た景色は言葉にできない程の感動を与えてくれました。その一方で、僕の出身である熊本で起きた水俣病は、企業によって環境が破壊された結果として多くの人を死に至らしめました。

こうした経験から、環境政策の必要性を実感しました。しかし、私の目指す日本の持続発展には経済成長も必要で、しばしば経済発展と環境政策は対立してきました。

そこで、経済発展と両立した環境政策という夢物語(と僕は考えていました)を中央省庁で追い求めることができるなら、自分の今後40年の人生を捧げる価値はあると考え、環境省に決めました。

School Days

◇ サークル活動

ワンダーフォーゲル部に所属し、1000mの六甲山から3000m級の北岳まで日本の多くの山に登り、みんなで1つのことをやり遂げる楽しさや、自然の大きさや厳しさを知り、心身の発達を実感しました。

一番心に残っているのは、僕が3年次に企画した北岳の登山合宿が無事に終わったことです。自分が企画しただけに部員の命を預かる責任も大きかった分、山頂で、部員全員で見た日の出や誰もケガすることなく合宿が終わった時の達成感は今でも忘れられません。

School Days

◇ 学業

大学では、行政法ゼミに所属し、入れ墨を入れた人の入浴を禁止する条例を学生同士で制定しました。

このゼミで一番難しかったのは、あらゆる状況を考慮して1つの文章に反映させることでした。入れ墨が表現の自由に当たる場合はどう扱うのか、規制の根拠が住民の入れ墨を恐れることにあるなら誰も見てない時ならいいのか、といった様々な事態を想定し、たった1行の条文に落とし込めるのは、難しく、楽しかったです。

今思えば、官僚の仕事に近いものがあったと感じています。

◇ アルバイト

僕は、個別指導塾でのアルバイトをしていて、小学4年生～高校3年生までの幅広い学年の子供を担当しました。

なぜか僕は親に無理やり連れられてこられた全くやる気のない生徒ばかりの担当になり、苦労したのを覚えています(笑)。そういった生徒には勉強ではなく、まず学習の楽しさや勉強の必要性を教えることから始めました。僕自身も高校3年生まで全く勉強の楽しさが分からず、いざ受験の時にきつい思いをした経験があったので、そうした思いや経験を子供に伝えました。結果として、担当した生徒は勉強してくれるようになり、自分も改めて学習の大切さを実感できる良い経験になりました。

Preparation for the Examinations

【試験対策】

マークは予備校の法科大学院向けのテキストでインプットし、市販の過去問集でアウトプットしていました。

教養は、僕の場合時間がなかったので知識問題は捨て、判断推理や文章理解をひたすら市販の問題集でこなしていました。

【面接対策】

人事院面接は、とにかく短時間で自分を面接官に理解してもらうために短く要点がまとまった文章にするよう気をつけました。予備校に通っている人は、先生が添削してくれると思うので、ぜひ活用してください。

官庁訪問対策は、正直今でも何をしていたかわかりません(笑)。ただ、1つ言えるのは、面接官に評価されようとして自分の考えをまげた発言をするのは良くないです。自分は、2年前にそれで失敗しました。職員の人々はみんな良い人ばかりで、自分の省庁を批判する発言をしたとしてもちゃんと聞いてくれます。

Message to Test-Takers～

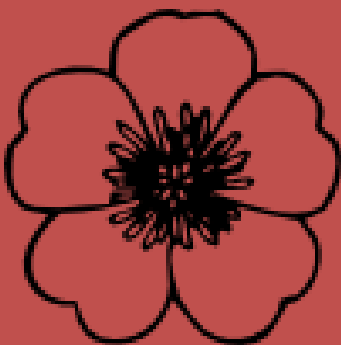
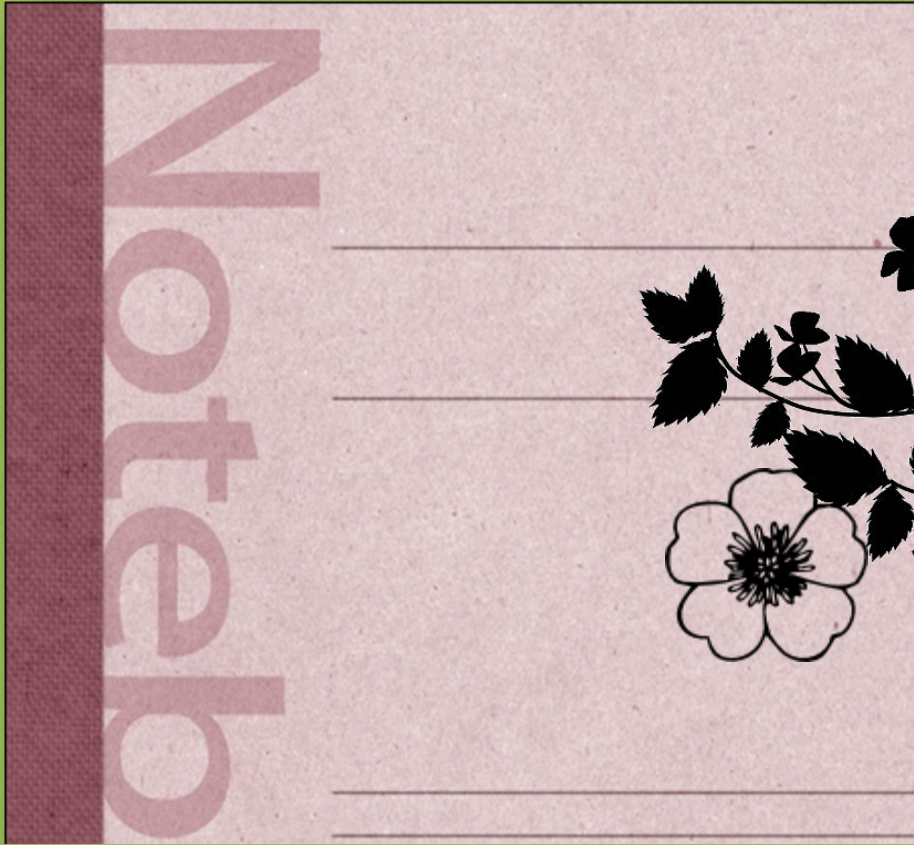
「省庁を超えた日本像を考えろ」

官庁訪問をしていて感じたのは、内定者はみんなそれぞれ目指す日本像があり、その実現の手段として省庁を選んでいる、ということです。

受験生は、この冊子を見るころは試験対策に忙殺されていると思いますが、時間が空いた時にでも日本をどういう国にしたいか、希望省庁の政策の先に何があるのかについて考えることをお勧めします。

そして、考えた結果として環境省を目指してくれると嬉しいです。

試験勉強の進め方



HOW TO STUDY

No. 1

(大卒教養区分)

成功例(Aのパターン)

✚ 一次試験対策

教養区分は、専門科目が無いぶん取り組みやすい面があると思います。まず、一次択一部分については、数的処理と文章理解が重要になってくるので、これらに関して直前期は日常的に問題演習をこなすようにしておくといいと思います。知識科目は、予備校や市販のテキスト等で頻出の要点を固め、問題演習で定着させることをお勧めします。人文科学・社会科学の暗記分野については大学受験時の知識もあるので、私は1カ月前から集中的に詰め込む方針にしました。総合論文試験は、予備校の添削を活用していました。3つの資料から情報を汲み取り、何を書けばいいのかを考えると結構うまくまとまると思います。

✚ 二次試験対策

まず企画立案試験ですが、事前に発表される資料を基に出題されそうな内容を予想し、友達と議論しておくこと立案の質を高められると思います。プレゼンは、時間の使い方を十分に注意し、時間が足りない or 余ることに気を付けてください。鋭い質問にも臆せず、その場でなにか答えられるように心がけるといいと思います。政策討議は、グループディスカッション慣れするのが一番の対策ですが、ディスカッションを通じ自分の主張をより良いものにするを目的として議論に参加していくといいと思います。自分にとってやりやすい方法で、ペースを保って勉強頑張ってください！

4月

・予備校受講開始(数的処理)
・学校の授業が始まる

5月

・数的処理に触れる程度
・主に息抜きに使う

6月

・数的処理に触れる程度
・サークルなどで楽しく過ごす

7月

・数的処理に触れる程度
・実習や合宿の日程が分かり焦り始める

8月

・総合論文試験の練習(添削講座)
・学科の試験に追われ多忙

9月

・暗記分野の詰め込み
・学科の実習に追われ多忙。焦りが募る

10月

・企画立案の準備
・頭のいい先輩や友達と議論

11月

・二次試験
・レジュメをまとめる練習

失敗例(Bのパターン)

私の場合は、試験の年の6月から教養区分の対策を始めました。同年5月の国家総合職試験の数的処理の成績はある程度良かったので、知識の勉強と論文の勉強を中心に行いました。

知識の勉強は思想や歴史などの勉強を一人で、家で自分に講義する形で勉強しました。論文は、予備校を活用して、幅広い社会問題について自分の考えを書いて添削してもらっていました。結果は、一次試験敗退。数的処理の失敗が原因です。自分の勉強は官庁訪問では役立ちましたが、教養試験向きではなかったと思います。数的処理の勉強が大切です！

HOW TO STUDY

No.2

(院卒行政・政治国際系選択)

成功例(Cのパターン)

✚ 試験勉強前の蓄積

私は歴史学科だったのでゼロでしたが、大学院入試の際に政治学と国際関係はひと通りやりました。法律と経済は全くゼロからでした。独学です。

✚ 一次試験対策

どの分野で何点とるか大まかに決めて、勉強時間を配分しました。時間には限りがあるので、ただやるのではなく、到達ラインまであとどのくらいか常に確認しながらやった方がいいと思います。あとは勉強する科目を絞るのも良いと思います。

一次は完全に暗記ゲームなので、基本書を読むよりも過去問集を往復する方が良いと思います。憲法行政法は5周はやりました。

政治国際を選ぶ人は、政治学・行政学・国際関係論が相当好きな人だと思うので、そちらは二次対策と併せて専門書を読みつつ進めると良いかと思います。ただ、かなりマニアックな知識を問うてくるので、結局過去問集をやらないと取りこぼします。

✚ 二次試験対策

- 論述…基本書の復習と過去問。公共政策を推奨。
- 人事院面接…知り合いの大人に模擬でお願い。
- 政策討議…本番通りやってみる。誰かに外からみてもらうのが吉。傾聴(うなずき、前の人を受けて話す)、礼儀、資料内容の確認、話し方・長さなど、内容以外のことを忘れがちになります。要望あれば問題作ります。

11月

・行政法の勉強を始める

12月

・就活が始まる
・SPI対策を数的対策がわりにやる

1月

・憲法を始める。いきなり過去問集をやる
・就活の説明会に忙殺される

2月

・ようやく行政法を一周する
・過去問集憲法2周目あたり

3月

・憲法、行政法の過去問集をひたすらやる。ようやく手応えがでてくる

4月

・1週目で就活に見切りをつける
・政治学、行政法、国際関係のつめ込み作業
・直前で一気に過去問を消化して点検
・時事対策

5月

・2チャンネルを見て肝を冷やす
・論述対策は定番本と過去問集をたくさんやる
・模擬面接練習
・志望動機の推敲

失敗例(Dのパターン)&政策討議課題の補足

✚ 大卒(政治国際区分)受験時の失敗

私は学部4年次に政治国際区分を受験しました。勉強法は過去問集を参考書のように加工して何度も読むというもの。結果は一次玉砕。過去問は解き、選択は国際法より行政学の方が、点が安定しやすいかも!

✚ 政策討議課題の補足

立場:英会話の授業を増やすべき	
理由1 「グローバル化の進展」 図、資料引用	理由2 「国際競争力の現状」 図、資料引用
理由3「早期英語教育の重要性」 政策評価や財政の視点にも言及	
結論「英会話教育が日本の産業力強化にも個人の生きる力の獲得にも繋がる」	

レジュメの書き方は工夫してない人が多いので、左を参考に工夫してみると高評価に繋がるかも! 財政の視点も入れると良いと思います。

HOW TO STUDY

No.3

(大卒法律区分/院卒行政・法律系選択)

成功例(Eのパターン)

✚ 試験勉強前の蓄積

法学部だったので、履修科目を試験科目と被せたり、履修済でもわかりやすい教授の担当になった授業は聴講するなど、大学の授業をうまく活用することは出来ました。ただし、教授の興味範囲と試験のポイントは必ずしも一致しないので、予備校に通う前の蓄積はあってないようなものでした。復習としては役立ちましたが。

✚ 一次試験対策

教養科目は教養区分(9月)までに固めておけたらかなり強いと思います。私はギリギリまで引っ張ってしまったので、時間を捻出するのが大変でした。数的処理・英語の配点は確かに高いものの、これらは確実に得点することが難しい科目です。時事をはじめとする知識系の対策を充実させるほど、本番でパニックに陥らずに済みます。法律科目は直前2週間のラストスパート(1日15時間まではがんばれます!)がそのまま得点に響いてくるので、直前期は専門に時間を割くのがベター。そのためにも、教養は早めに完成させ、「あとはざっと目を通すだけ」という状態にしておいた方が良いでしょう。専門科目は、過去問ばかりやって知識がばらけてしまわないよう気を付けてください。私は過去問を繰り返すよりテキストで知識を整理して覚えた方が、点数が伸びました。

✚ 二次試験対策

- 専門…答案構成、解答例の言い回しや定義を覚える
→直前はテキスト含め洗いざらい復習
- 政策論文…頻出テーマと解答例を確認。
答案を書いてみて、添削を受けるつもりだったが間に合わず(涙)。専門以上に、他人の目を通した方が良いでしょう!
- 人事院面接…予備校の面接シミュレーションを利用

11月

・大会でほとんど勉強できず

12月

・予備校の講義を回す
教養1週目
専門2週目

1月

・数的処理を毎日解く
・空き時間で英語

2月

・時事対策を始める
・講義、復習が終わらなくて泣きそうになる

3月

・ゆるゆると説明会に出る
・「今しかできないから!」と言っては遊ぶ

4月

・鬼の形相で丸暗記(短期記憶を駆使!)
・憲民行の択一過去問を回す
・勉強していないときは時事の講義音声を聴きながら生活

5月

・記述対策開始(焦る)
・GWまでは一行問題に集中
・GW後、予備校の記述講義を回す
(1日10時間)
・直前はテキスト・答案例の復習・暗記

失敗例(Fのパターン)&補足

✚ まさかの一次落ち

私は学部4年次に同じ試験を受けて、たった1点足りずに一次落ちしています。原因は、教養が足を引っ張ったから。数的・英語の対策に加え、せめて時事くらいは完璧にしておかないとリスクが高いかも知れません。

また、「民間就活」の焦りもあって勉強の質が落ちてしまったのも一因。「勉強した気」になってしまうと、精神的にも逃げ場が欲しくなるし、何より危険です。院試や今年の試験にあたっては、勉強SNSアプリを使って、勉強時間と使った教材を併せて記録するようにしました。各科目への時間配分も確認できるし、仲間の動向もわかるし、便利でおすすめです。

✚ 院卒区分を受験する方へ

特に公共政策大学院の学生は、二次では司法試験に準ずる対策をした方が良いでしょう。私は、新司法試験の過去問の採点基準を見たり、行政法などの本を使って、多少マニアックな判例を使えるように準備したりしていました。院卒行政(経済系)で受験する方も、法科大学院の学生は専門択一で35点程とると思って対策しておくべきだと思います。

HOW TO STUDY

No.4

(大卒経済区分)

成功例(Gのパターン)

✚ 一次試験対策

経済区分は、ウェイトが大きく、他の科目に応用できる経済理論(ミクロ・マクロ)が理解できているかが重要になります。年内は少なくとも経済理論はある程度完成させましょう。統計学は公式暗記と過去問演習をベースにすればよいと思います。財政学は二次試験科目でもあるので、理論は問題演習を中心に、制度は2~3月頃から覚え始めました。専門の選択科目ですが、憲法はおすすめです！憲法は秋頃から学習していましたが、他の選択科目(私は国際経済学と経営学)は年明けから勉強し始めました。

教養については、いかに効率よく勉強するかが大切です。文章理解、数的処理はパターンが決まっており早期からの対策が可能ですが、知識問題はすべての科目を網羅することがほぼ不可能なので、高校時代に勉強したことがある科目と時事対策(2月頃~)に絞っていました。

✚ 二次試験対策

専門対策は2月頃から少しずつ択一と並行してやっていました。基本は過去問演習と試験委員の先生の本を読むことでした。過去問を解いているうちに、何がポイントで何を答案に書かなければいけないのかが掴めてくると思うので、手を動かして自分で解くことが大切です。政策論文は、論理が一貫していること、時間配分、起承転結の文章構成に気を付けて、友達と添削し合っていました。

10月

・経済理論と数的処理を少しずつ
・大学の後期の授業開始

11月

・ほぼ勉強できず
・サークルとゼミに忙殺される

12月

・たまっていた予備校のDVDを見まくる
・バイト(ケーキ屋)に忙殺される

1月

・専門択一の選択科目を勉強し始める
・大学の後期試験

2月

・予備校の模試、記述対策開始
・予備校と家の往復…。

3月

・二次対策を重視、択一は時事対策のみ
・先輩の追いコン準備

4月

・択一の知識・苦手分野を中心に問題演習
・友達に久しぶりに会って喋りまくる

5月

・記述対策、面接練習
・サークルにちょこちょこ顔を出す

失敗例(Hのパターン)

私は12月までサークルの活動をしていたことと、学部であまり真面目に勉強していなかったため(笑)、本格的に勉強を始めるのが12月と比較的遅めでした。先輩たちには、夏~秋に勉強を始めたほうがいい、と言われていたため少し焦りがありました。結果、民間就活を断念し、国家総合職一本に絞ることに決めました。

国家総合職を本命にしている人も、民間就活はしておいた方がよいと思います。自分が興味のある事柄について国と民間ではアプローチの仕方が違うので、視野が広がるとともに考え方も多様になります。また、働いている人の話を何でも聞くことができるのは今だけです。勉強は余裕をもって計画的に始めましょう！

クラム舞



コラム集

～内定者から受験生へ伝えたいこと～

民間就活と公務員試験の両立

✦ はじめに

就職というひとつのターニングポイントにおいて、大きく分けて『民間企業への就職』と『公務員への就職』があります。そこで、ここでは、内定者の民間企業への就活状況とアドバイスをお伝えしたいと思います。あくまで一例ですが、参考にしてもらえると嬉しいです。

✦ 内定者の就活状況とアドバイス

【内定者Aのパターン】

- 受けた数: 4社
- 業界: 独法、インフラ、マスコミ
- アドバイス:

周りが就活しているのを見て焦って就活すると、結局本命の試験で焦ることになります。相当な余裕がない限り、国総と同じレベルで本当に迷っている企業以外は受けないほうが安全だと思います。また、就活するのなら、公務員が第一志望であるという自覚をもって、時間をかけすぎないようにきっちり見切りをつけてタイムマネジメントすべきだと思います。

【内定者Bのパターン】

- 受けた数: 今年度は2社。通算では15社ほど。
- 業界: 投資銀行、コンサルティングファーム、ベンチャー(IT系と社会問題解決系)、人材
- アドバイス:

就活ばかりに時間をとられて、勉強時間が少なくなってしまうのは本末転倒です。ただ、エントリーシートだけで短期インターンの採用を決定する企業もあり、年内にできるだけ参加しておくことをお勧めします。年明けからの就活は、理想としては、年内に公務員志望を固めておき、数社に絞ってから行うべきだと思います。僕の場合は、年明けからは1社に絞って就活を行い、3月に内定を頂いた後は公務員試験に専念しました。

公共政策大学院や経済系の大学院の出身者で院卒行政区分を受験される方のライバルは、司法試験を目指して全力で勉強している法科大学院の学生です。大学院生は就活のプレッシャーも大きいかと思いますが、ライバルを意識して年明けからの就活を考えると良いと思います。一方で、民間企業のインターンでできる繋がりも大切です。個人的に環境省はベンチャー企業の雰囲気好きな学生と親和性が高いと思います。いずれにせよ、海外就活や博士課程進学も含め色々進路を模索して、それでもここで働きたいと思う方、是非、一緒に働きましょう！

【内定者Cのパターン】

- 受けた数:20社程度
- 業界:電力、銀行
- アドバイス:

僕の場合は、前年度に合格していたので、がっつり就活できました。なので、既合格者向けにアドバイスします。とにかく時間の許す限り民間就活をしましょう。自分の考えをわかりやすく相手に伝える技術が得られ、面接慣れもできます。また、民間企業の魅力を知った上で、なお公務員を目指すほうが、説得力があると思います。

実際、僕も5月末までは内定を頂いた民間企業に行こうと思っていましたが、やっぱり利益にとらわれない公務員がいいと思い直し、官庁訪問しました。

【内定者Dのパターン】

- 受けた数:今年度は9社。
- 業界:総合商社、金融系(都銀、地銀、信用組合)、物流
- アドバイス:

私は昨年度の官庁訪問を失敗し、その反省点として、自己分析をきちんとせず、志望官庁もだいたいしか考えていなかったことが挙げられました。そこで、今年も一応試験は受けましたが、自己分析をし直し、民間就活にも取り組みました。試験を受け直したのは、席次が関係ないとは言え、良いに越したことはないと考えたためです。自己分析自体には正解はないですが、過去を振り返り、自分の考え方等を見つめ直す良い機会になります。民間就活をしている学生との情報交換も貴重なもので、公務員と民間とを比較する際に有益でした。

【内定者Eのパターン】

- 受けた数:40社以上
- 業界:コンサル・シンクタンク(戦コン・総研からローカルまで色々)、記者(全国紙、地方紙、放送局)、再生可能エネルギー、総合商社、メーカー(電機、化学、建機)環境関連、人材、小売物流
- アドバイス:

一年目は試験と並行して、二年目は試験を通過した状態で就活しました。二年目は再生可能エネルギーのN社から内々定を頂くことができました。私見では、民間就活は必ずした方が良いと思います。そもそもすぐに公務員に絞れるほど僕達は社会のことを知りません。僕は民間企業の就活を通じて、公益性が高くかつ利益を出すことの困難さの一端に触れました。ウソをつかずに面接で自分のしたいことを話した時、面接官から「そんなのは甘い」「うちはボランティアじゃない」という反応を何十回とされました。内定をもらうためにはうまいこと言う必要もありますが、そうやって自分のしたいことを確認していくのも大切かと思います。僕が内々定をもらった会社は、国家公務員も受けると伝えた上で内々定を出してくれましたし、辞退した時も、『道は違えど同志としてがんばろう』と送り出してくれたので、本当に良い出会いでもあったと感じています。仮に公務員になったとしても、公務員と民間の意識のギャップは想像以上に大きいので、民間企業の論理を多少なりとも身を持って体感することはとても大切だと思います。

試験は大変ですが、勉強が就活の息抜きになって意外とできるかも…しれません ww

【これまでのまとめ&補足】

多くの内定者が就職活動を通して視野を広げるべきだという意見をもっています。ただ、年明け以降は試験勉強の追い込み時期でもあるため、早めに就活を始めて年内にできるだけ志望企業を絞っておく、教養区分などを含め一度試験に受かってから就職活動をがっつりやるなどが両立のコツのようです。また、海外の大学院(修士、博士)進学や海外の企業を目指す学生が日本にもっと増えてもいいのではないかと思います。

【おまけ(社会人経験者の戯言)】

新卒というカードは一回しか切れません。これはみなさんが考えている以上に貴重なことです。また就職活動のように、多くの企業の人と出会え、様々な話を聞ける機会もそうそうありません。ですので、個人的には多くの企業、省庁等の話を聞いた上で選択をしてほしいです。

時間があればインターン等に参加するものいいと思いますし、時間がない人も合同説明会等で多くの企業のお話を聞いてみるといいと思います。1日かけて行われる合同説明会に参加すればそこそこの数の話を聞くことはできます。今後の長い人生の選択と考えれば、1日くらい合同説明会に参加する時間を作ってもいいのではないのでしょうか？

また、『興味がある企業がない』っていうあなた。それは、あなたが、相手(企業)のことを知らないからです。知らないことに興味が出ることなんてそうそうないです。まずは、相手のことを知ってあげてください。その上で、本当に興味がないか判断してください。

いろいろと書きましたが、とにかくみなさんにとって後悔のない選択となることを祈っています。

部活(サークル)と公務員試験の両立

✦ はじめに

ここでは、部活と試験勉強を両立していた内定者が、みなさんへ『思い』や『アドバイス』を伝えたいと思います！

✦ メリハリが大切

一番大切なことはメリハリだと思います。私の場合は部活も最後まで手を抜くことなくやり遂げたかったので、大きな大会がある12月まではひたすら部活に集中しました。練習後は疲れているので無理に勉強せず、授業の空き時間やオフの日に少しずつ勉強するようにしていました。

✦ 焦らないこと

先輩や周りの友達は夏～秋にかけて本格的に勉強を始める、という人が多かったですが、私は、年内はほぼ勉強しておらず、正直少し焦ることもありましたが、勉強に関してはやり方もペースも人それぞれなので周りに流されてはいけません。自分なりの大まかなスケジュールを立て、部活と勉強の切り替えができれば問題ありません。むしろ、今までで勉強できていない分を取り戻そうという気持ちになり、短期間で集中して効率よく勉強できると思います。そして、学生生活で部活に打ち込んだということは人生経験として本当に大きな価値のあるものになります。そのことを自信に変えて頑張ってください。

✦ 諦めないこと

以上のことは部活と勉強の両立に関してですが、そもそも両立は大変そうだから…と受験自体を諦めてしまう学生も多いのではないのかな、と思います。ですが、国家総合職を目指したいと思ったなら諦めないでほしいです。もちろん両立することは容易ではないですが、それでも十分に目指す価値のある職業です。実際に部活をしていたという内定者は多いです。諦めずにやってみることが大切です。

✦ おまけ(元文化系サークル生から一言)

人事院面接対策をやっている、チームで苦労して物事を成し遂げ、仕事に絶対に必要な体力や礼儀作法が身につく部活動を大学でもやっておけば良かったと思うことがしばしばありました。文武両道であることは、公務員就活でも民間就活でもアピール度大だと思います。今部活に打ち込んでいる方は、英語や芸術系の活動にもアンテナを貼りつつ、自信を持って勉強と部活の両立を頑張ってください！羨ましい><

地方出身者向けアドバイス

✦ はじめに

よく公務員試験は情報戦で地方大生は不利と言われます。ですが情報の多寡ですべてが決まるわけではありませんし、きちんと対策をして臨めば地方大生でも大丈夫です。今回このコラムの場をお借りして情報集めに限らず地方大生に向けていくつかアドバイスをしたいと思います。

✦ 周囲の環境

国家総合職を目指すにあたって周りの環境は非常に重要です。どうしても一人でやっていると勉強のモチベーションも上がらないし、入ってくる情報も限られてしまいます。特に地方大学や私立大学だと周りで総合職を本気で目指す人は限られてくると思います。ですから大学の同期でも予備校の仲間でもいいので、総合職を目指す仲間を周囲で見つけて共に切磋琢磨していける横の関係を作るのがいいと思います。このような関係があると勉強以外にも様々な情報のやり取りができます。

✦ 説明会

総合職は他の公務員試験種と比べると圧倒的に説明会の開催が多く、またその説明会への参加も省庁によっては重要な意味を持ちます。ですがその開催は東京に偏っていて、地方で開催される説明会の回数は限られてきます(そもそも地方では各地方の中心都市以外では基本的に開催されない)。なので、金銭的に余裕があれば霞が関オープン等、東京での説明会にも積極的に参加することをお勧めします。ただ、むやみやたらに説明会に参加すればいいのではなく、目的意識を持って説明会に臨むことが大事です。つまり、限られた説明会をどれだけ実のあるものにするかが地方大生にとって重要だと思います。

✦ 官庁訪問

総合職には官庁訪問というシステムがあり、事前の情報集めは非常に重要です。実際に官庁訪問を経験した先輩の言葉には大変な重みがあるので、生の声を大事にしてほしいというのがここでのアドバイスです。具体的には官庁訪問をした方と縦の関係を築いて情報を得るのがおすすめです。筆者は内定者の先輩方と総合職を目指す学生で集まって情報共有や面接練習を行っていました。他にもこの冊子のような各省庁の内定者冊子、予備校の官庁訪問体験記、ブログ、官庁訪問対策本などを参考にしてもいいと思います。ただし個人的には、得た情報から小手先の対策で官庁訪問に臨むのではなく、自分の率直な姿や考えをぶつけたほうがいいと思います。あくまで情報はツールの一つです。

✦ 経済的負担

民間就活ほどではありませんが、公務員の就活にもそれなりのお金が必要です(交通費が出るということは一切ない)。特に総合職は説明会の参加に加え官庁訪問期間中2週間あまりずっと東京に缶詰なので、地方学生は宿泊費等で多大な出費となります。これは親に頼むなり人事院で紹介してくれるユースホステルに泊まるなり自分で何とかするしかないと思います。

✦ 最後に

筆者自身地方大学出身者として、このコラムが少しでも総合職を目指す地方出身の皆さんの役に立てばと願っております。地方だから不利、周りに公務員試験を受ける人がいないから不利、と決めつけずにチャレンジしてみてください。ガンバレ地方大生！

官庁訪問特集

平成26年度総合職春試験官庁訪問スケジュール

月	4月	6月							7月							
日	27	...	23	24	25	26	27	30	1	2	3	4	7	8	9	10
曜日	日		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木
	第一次試験日		最終合格発表日		訪問開始日											内々(午前9時解禁日)
	接触禁止期間 (※第1次試験日から開始)			隔日訪問 (3日に1回)				隔日訪問 (2日に1回)				連日訪問				

官庁訪問とは

官庁訪問とは、国家公務員総合職試験に合格した者が、官庁に採用してもらうために実際に省庁に行って面接してもらうものです。

各訪問者は、3つの省庁(例えば、第1クール1日目に環境省、2日目に農林水産省、3日目に国土交通省)を回り、1日をかけて面接で評価されます。上の図でいえば、6月25～27日を第1クール、6月30～7月2日を第2クール、3日・4日を第3クール…といった形式です。そして、それぞれのクールで、3つまたは2つの省庁を回ります。

面接の形式

環境省の官庁訪問の面接には、主に人事面接と原課面接という2つの形式があります(他の省庁も大体似たような感じです)。

【人事面接】

秘書課(省庁によっては人事課)の職員と面接し、志望動機や学生時代頑張ったことを話します。この人事面接は、一般的にイメージする面接と思ってもらって大丈夫です。

【原課面接】

実際に働いている職員の方を伺い、仕事の話聞き、その省庁の業務に対する理解を深める面接のことをいいます。

入口面接

・官庁訪問一日の流れの例

- ・会う人:採用担当者
- ・内容:面接カードの内容を中心に(志望動機、訪問予定の他省の志望動機、興味関心のある政策分野等)。

原課面接

- ・会う人:政策運営等の担当職員
- ・回数:1回～2回(受験生によって異なる)
- ・内容:主に携わっている仕事の説明。説明を聞いた上で質問をしていく形態。意見や考えを聞かれたり、ひたすら受験生に対して質問をしてくる場合もある。

人事面接

- ・会う人:採用担当者
- ・内容:面接カードの内容を中心に(最初よりもより深く)。原課面接を受けての感想、環境省へのイメージはどう変化したか等。

原課面接

- ・前述の原課面接と同じ。原課面接は環境省側の人繰り等の関係から人事面接と前後する場合や、受験生によって回数が異なる場合がある。1日合計で2～7回程度実施。

出口面接

- ・会う人:採用担当者
- ・内容:その日の評価、今後に対するアドバイス等

官庁訪問経験者から伝えたいこと

✦ 心掛け

【アドバイス①】

官庁訪問は、省庁に面接で評価してもらうプロセスである一方で、受験生が今後40年の人生で何ができるか・自分に合う省庁はどこかを確認するプロセスでもあります。なので、心がけとしては、自分が疑問に思っていることや職員にはどういった人が多いのかを積極的に見て、合わなかったらこちらからお断りを入れる覚悟で臨むのがいいと思います。こうした覚悟を持つためにもできるだけ、視野を広げたり、選択肢を増やしたりするためにも民間就活はしましょう(笑)。

【アドバイス②】

知識やテクニックに走るのではなく、自分がやりたい軸を突き詰め、それができるかを面接の中で調べていくことが大切だと思います。そして、面接が楽しいか、省の雰囲気自分に合っているかという感覚も大切だと思います。各省が大切にしている価値観と自分が大切にしている価値観が一番フィットするのはどこかという視点から面接をしていくと良いと感じました。あと、僕の場合はベンチャー気質の省で働きたいと思っていたので、先輩と後輩の関係や、若手の育成方針(教育中心かOJT中心か等)を感じるようにしていました。

【アドバイス③】

面接となると、想定問答などを“ビシッ”と用意して面接に臨む人をたまに見ますが、それは間違っていると思います。例えば、普段の友達との対話を思い出して下さい。友達との対話は、対話の中で考えながら話し、笑いあっていませんか？友達との対話と同様に、面接も『対話』であり、楽しむことが大切です。ゆえに、最低限『志望理由』や『これまでの人生(勉強してきたこと、注力してきたこと、趣味、特技などなど)』を簡単に整理し、取りまとめておけば大丈夫です。あとは、対話の中で、その場で考え、『志望理由』や『これまでの人生』のネタを小出しにしつつ面接を楽しむよう心掛けてください！(私は、この心掛けで民間も含め面接で落ちることはほぼ皆無でした。)

✦ 待合室での過ごし方

【アドバイス①】

官庁訪問は、1日中拘束されるので、待ち時間は非常に長いです。人によっては、5時間も待ち時間があっただけです。なので、最初は同じテーブルになった人と情報交換や雑談したりしていても、夜になってくると、誰も言葉を発しない「無」の時間が多くなります。そういった時は、無理にしゃべらずボーっとしたり、寝たりしていました。今になって思えば、その時に面接の振り返りやまとめをやっておけばよかったです。

【アドバイス②】

できるだけ、同じテーブルの人と話すようにすると思います。面接に行ったときはその内容を共有し、それ以外にもバックグラウンドや将来の夢など、いろいろ話していました。変に探りを入れたりしてギスギスするより、純粋に会話を楽しんだり、時には熱く社会問題を議論しておく、楽しく気分転換にもなるし、学びも大きいと思います。あとは、今年環境省ではジャズやボサノバが待合室で流れていたため、この曲は何かを隣の人と考えたりしていました(笑)。あとサークルや趣味の話聞いていくと、自分の世界観を少しだけ上げることができるかも。

✚ 服装や持ち物

【服装について】

服装は、クールビズで全く問題ありません。特に第1クール1日目だと、周囲の状況が分からないことや第一志望の省庁を訪問することから、ジャケットやネクタイを着用している人をよく見かけます。しかし、待合室は多くの人が集まることや省庁によっては冷房が弱い(ついていない)ため、非常に暑苦しいです。結局みんなジャケットは脱いで面接に行っていました。なので、みなさんクールビズで行きましょう！！クールビズが原因で、面接の評価が下がるようなことはありません(というか、上がるかも！)。

*参考

・女性:半袖シャツ(or 長袖折り)、リクルートスカート／男性:ネクタイ無し、クールビズ(半袖Yシャツ)

【持ち物について】

基本は必要書類への記入や面接でのメモ等に使用する筆記用具、ノート(メモ帳)といった必需品以外は不要だと思います。また待ち時間は、基本的に何をしても自由なので、庁舎内の自動販売機やコンビニに行けます。困ったらそこで買い物しましょう(笑)。ただし、「*参考」のような持ち物を携帯していた受験生もいました。

*参考

- ・飲食物:飲み物(待合室に飲み物が用意してある省庁もありますが、自分のお気に入りがあると安心します)ゼリー系飲料(疲労感から固形物が食べれないときがあります)
手軽なお菓子(小腹がすいた時のために)
- ・眠気覚まし用:栄養ドリンク、ミンティア、フリスク等(フリスクを周囲の学生に配ると空気が和みます)
- ・その他:リフレッシュグッズ(汗拭きシート、目薬等)、スマホのモバイルバッテリー、手帳、クリアファイル

✚ 官庁訪問に複数回チャレンジする人へのアドバイス

試験合格後、1回目の官庁訪問に失敗し、2回目や3回目のチャレンジをしようと考えている人にアドバイスするとすれば、民間就活をしてください、ということです。公務員試験の勉強と民間就活の両立はなかなかしんどいので、1回目は、民間就活をせずに官庁訪問する人が多いと思います。2回目以降の人は、もう試験を受ける必要がないので、使える限りの時間をできるだけ他業界の就活に使うことをお勧めします。なぜなら、他業界を知り比較した上で公務員を志望する方が言葉に説得力が生まれるからです。また、先述のとおり、民間企業に内定をもらっていると、心に余裕が生まれ、自分のペースで面接を行うことができると思います。

留学経験者から伝えたいこと

✦ 留学のすゝめ

まず、留学はした方が良いと思います。英語で議論やプレゼンテーションができることは、これからの国家公務員にとって重要なスキルだと思います(中国や韓国の学生は、英語は普通に話すし、第二、第三外国語も話せるということも多い)。それ以上に、学生のうちに、外国人の友達を創ったり、難しい課題について腹を割って話したりする経験から学べることは大きいと思います。また、自分の進路を決める前に、一度海外に出て、日本を外から眺めたり、自分が日本人であるということを体感したりすることは進路選択の役に立つはずです。同世代の海外の学生がどう考えて就活するかを知ることも良い刺激になると思います(新卒から海外で働こうとしたり、ハーバードなど海外大で博士課程をとろうとしたりする学生が日本より多い印象)。

✦ 留学で得られること

僕は留学により、日本をもっと深く知ることができたと思います。留学先では、「おかしいんじゃないか?」と思うことに出会うと思います。でも、それは現地では、自分の常識の方が「おかしい」と思われていることもあります。留学先と日本を比べることで、日本は物事を緻密につきつめて考えるのは得意だけど、大局観やスピードは他の国に学ぶべき点もある、とか。日本は公共/世間を大切にすけど、家族を大切にす姿勢は他の国と比べて希薄なんじゃないか、とか。留学先でいろいろ感じる中で、もっと日本について考えるようになったし、日本のために働きたいという気持ちが強くなりました。後は、留学先では、自分が日本人代表として(教室にいる日本人は自分だけだったりする)様々な質問に答えることが求められる場合もあるかと思います。なので、留学前に、日本の近現代史も含めできるだけ勉強して自分の考えをもっておくと、留学で得られるものが多くなると思います。いずれにせよ、留学先では積極的に外国人の輪に入って、率直に意見をぶつけていくことをお勧めします。

✦ どう国家総合職試験と両立するか

予備校によっては、インターネットで全ての授業を提供するところもあり、海外で公務員試験の勉強をすることは可能だと思います。しかし、いろいろとお金もかかるため、できれば留学前に公務員試験に合格しておくことをお勧めします。あとは、各省の情報収集などについては、自分が留学中であることを申告した上で、各省の採用担当の方から、直接メール等で質問してみるのも良いと思います。ちなみに、僕が留学した韓国では、24時間運営されている図書館が学内の寮のすぐ近くにあり、現地の学生も夜を徹して勉強していたので気合が入りました。更に、深夜に突如音楽祭が開催される日もあったりして息抜きにも事欠きませんでした。

いずれにせよ、「習うより慣れろ」です。少しでも、留学に興味があれば、早めに飛び出してみることをお勧めします!(ちなみに環境行政でいうと、これからはアフリカが大切になるという話で、フランス語等ができるとうれしいかも。)

内定者の言いたい放題

その1～環境省の魅力～

✦ はじめに

説明会や官庁訪問などを通じて内定者が感じた環境省の魅力について自由に発言してもらいたいと思います。

【業務編】

- (A)：環境省の仕事は国内・国外、そして現在の問題から将来に影響を及ぼす問題まで幅広いものであり、責任の大きなものとなっています。そのようなフィールドで自分が社会に働きかけることができる環境省の仕事は、とてもやりがいのあるものだと思います。
- (B)：地域から国際まで、幅広い政策分野に、「アイデアを出しながら実現させる」という形で関わることです。そして、環境は世界が一つになれる政策分野です。
- (F)：扱う分野が幅広いこと。
- (G)：環境行政にがっつき、最高。
- (H)：どの政策分野にも関わるものであるとともに、調整する第三者の立場でなく、一当事者として政策に携わることができる。
- (I)：環境と名のつくあらゆる仕事ができる場所です。仕事を通じて幅広い分野に関わりたいと考えている人にはお勧め。
- (J)：環境を考えるということは、多くの人の声に耳を傾け、それをかたちにする仕事だと思います。この仕事こそ、一生の仕事にするにふさわしいと感じました。

【組織編】

- (A)：どの職員さんも自身のお仕事に使命感や問題意識を持たれているということ、官庁訪問を通じて強く感じました。また、学生の思いに真剣に向き合ってくれる職員さんばかりで、こんな人たちと一緒に働きたいと思いました。
- (B)：組織に勢いと度量があり、幅広い意見を率直に表明し、かつ、実現するために行動する自由があることです。また、若手(内定1カ月でも!)に仕事を任せる気風があることです。
- (C)：組織の風通しが良く自分の思いを実現しやすいところも魅力的。
- (D)：風通しのよさとアットホームな雰囲気です。
- (E)：正義感の強い、まっすぐでかっこいい職員さんがいること。自分の正義感も曲げずに済みそう。
- (J)：どんな人の話もしっかりと聞こうとする姿勢。
- (K)：官庁訪問を通じて、足りないのはやっぱり現場感であると思いました。省庁で現場に近いとか住民目線とかいう言説はちょっと無理筋です。環境省はかなりマシな方だと感じましたが、大きく見たらどの省庁もどنگりです。だってずっと霞ヶ関にいるし仕方ない。ただそれは個人的に現場をつくることで回避できるのではと思います。環境省の官庁訪問では、そうした欠点も含めて、組織にとって「何が足りてないか」を意識されている職員の方の話をたくさん伺って、そこは他の省庁との大きな違いであり、魅力に感じたところでした。

【その他編】

- (B) : これからの世界における日本の在り方を考えた時、環境を軸にした国づくりが重要であると堂々と話せることで、環境と人々の活動が調和した社会を創るというテーマは、海外の友人や、まだ見ぬ自分の子供たちにも自信を持って語れるテーマだと思います。
- (C) : 21世紀は環境の時代になると思います。環境省のこれからは大きな可能性が広がっていると考えます。
- (F) : なにより次世代にいい環境を残すことに貢献できること。
- (G) : 霞が関内でのベンチャー的風土。
- (H) : 水俣の事例のように携われる政策が広範であること(環境を軸にした地域活性化事業や、公害を二度と繰り返さないという思いを「水銀に関する水俣条約」の形で世界に発信する等。地域の方々との連携や他省庁との連携が重要)。

その2～説明会の活用方法～

✦ 内定者はどれくらい説明会に参加していたのだろう…また活用方法は…

内定者をみると、説明会の参加回数は人によってまちまちですが、回数が多い人の方が多く印象を受けます。これは、その分、志望度が高く、官庁訪問を通じて思いなどが評価されたためと考えられます。ここでは、参加回数ごとに分け、内定者がどのような気持ちで説明会に参加していたのか述べていきます。

【10回以上参加した内定者】

- (A) : 私は環境省の説明会にはほとんど参加していました。また、環境省の説明会は種類が豊富で、業務説明会や政策シュミレーション、座談会などがあり、どれも単純にとっても楽しかったです。官庁訪問前には今まで参加した説明会の資料を見返したりしていました。説明会に何回参加したかなどは、官庁訪問の評価に直接関わることはないと思います。ただ、たくさん参加することで自分がその省庁に興味があるということは必然的に伝わります。
- (B) : 説明会やインターンシップで良い質問をした、グループの議論を上手くまとめてチームを活性化させたなどがあれば、官庁訪問でマイナスに働くことはないと思います。ただ、勝負は官庁訪問です。また、説明会で頑張る以上に公務員試験に合格することが大切です。
- (G) : めちゃめちゃ参加しました。説明会で聞ける話は面白いのでおすすめです。なぜなら、採用担当者に顔を覚えてもらったりするとそれが自信に繋がるからです。ただし、官庁訪問でのお話に新鮮味が欠けるのが若干欠点です。

【5回以上10回未満参加した内定者】

- (C) : 前もって省庁の政策の方向性やカラーを知っておくことで、官庁訪問してみてガッカリといったリスクが減らせるし、知識も増やせます。また人事の方に顔を売っておくという点でも非常に重要。
- (F) : 複数回参加して、省の政策の大まかな方向性を掴むこと、省の雰囲気や職員の空気などを知ること(僕は主に後者の目的で参加していました)。業務的関心は働いていくなかで変化していくものだと思います、僕は人の面で省庁を選びたいと思っていたため、説明会が省庁選びの決め手になったと思います。

【5回未満の内定者】

- (D) : 説明会は、省庁の雰囲気分かり、また自身の持っていた省庁イメージも良い意味で変わることが多いです。省庁のカラーと自身の合う or 合わないは官庁訪問に直結するので、説明会でよくみることが大事だと思います。
- (E) : 私は最後の1~2回しか参加してないのですが、やっぱり1回は参加したほうが良いなと思いました。存在を認識してもらうのが大事だし、(良い意味で)目立つことが出来れば後々強い気がします。
- (H) : 説明会は、採用担当者と話せるのみならず、原課職員の話聞ける貴重な機会でもあるので、3~4回は参加すると良いと思います。では、“官庁訪問で”何か活かされたかといわれると微妙。省庁の働き方のイメージはできたが、直接官庁訪問に生きるものは余りなかったと個人的には思います。私は、あくまで、官庁訪問でどの省庁を回るかの参考程度でした。
- (J) : 試験勉強の妨げにならない程度に参加の方がいいと思います。面接で成功するためには、相手のことを知らなければならないからです。そして、相手のことを知るには直接会ってみるのが最も効率的だと思います。
- (K) : 説明会ってつついボサッと聞いてしまうのですが、前例と違うことをしたとか、積年の課題をクリアしたとか、どこにその職員さんの個人的な思い入れがあるとか、そういう色合いを観察すると楽しいし、質問しやすいです。あとは日常的に自分が抱えている問題意識を会う人会う人全員にぶつけるとか。これだけは僕の得意芸でした笑。

【0回の内定者】

- (I) : 説明会は、その省庁の魅力を短時間でわかりやすく伝えてくれる場なので、できるだけ行くことをお勧めします。ただ、参加しないからといって何か不都合があるわけではないと思います。実際、私は1度も参加していません。

その3~席次、訪問日、出身大学、年齢と採用の関係~

✦ 席次、訪問日、出身大学、年齢、既卒新卒は採用に直結しない！！

内定者全員が、席次、訪問日、出身大学、年齢について、採用に『関係がない』という印象を受けています。プロフィールで確認してもらえるとよくわかると思いますが、実際、環境省では様々な席次、訪問日、出身大学、年齢など様々なバックグラウンドの人が採用されています。

【席次】

- (B) : 席次は良いとその人の個性になるかもしれませんが、席次以上に議論の強さや思いの強さが官庁訪問では大切だと思います。
- (C) : 私自身席次は良かったが某省では第1クールの6時で切られた。
- (J) : 試験壊滅して、席次ボロボロだった私も採用されています。

【訪問日】

- (B) : 環境省は、各訪問日からバランス良く採用している気がします。
- (C) : 環境省は3日目でもしっかり相手をしてくれました(体験談)。

- (D) : 初日の方が意欲を伝えやすくアドバンテージがあると感じます。ただ、2日目、3日目も十分採用されています。
- (E) : 自信がなければ誠意を見せるために1日目に回るというのはアリかもしれません。他に第一志望があって迷っているなら、2日目、3日目に回っても環境省はちゃんと理解してくれます。

【出身大学】

- (B) : 出身大学についても、多様性を重視していると感じます。個人的にも、地方や海外の大学出身の方や、芸術系の大学など多様なバックグラウンドを持った方に環境省を目指して頂きたいと思っています。
- (C) : 学歴が高い人が結果的に残っているように見えるが、実際その人たちは本当に優秀なので仕方ないです。学歴的に劣っていても優秀であればしっかり結果を残せています。結局本人の実力の勝負だと思っています。

【その他】

- (H) : 既卒未卒の違いや院卒学卒の違い等も関係ないように思えます。
- (K) : 区分だの何回目だの学歴だの男女だの院卒だのって、官庁訪問には裏事情的な類は山ほどあると思います。ここには書けないので直接聞いて下さい。僕は不器用で頑迷固陋な人間だったので、ひたすら真っ直ぐにやって、それでも認めてくれたのが環境省でした。だからたぶん、環境省はそういうことだけで人を判断しない組織なんじゃないかと思います。
- (F) & (I) : 今年の内々定者が様々な大学、様々な生い立ちであることから関係ないと思います。

その4～政策の知識は求められている…？～

✦ 政策の知識は、最低限はあった方がいいけど、一番大切なのは気持ち

内定者全員がマニアックな政策の知識は不要であると考えています。ただ、省庁が取り組んでいる政策を広く浅く知っていた方が、面接をする上で有利であると考えているようです。また、政策の深い知識よりも、自分が考える問題意識や考えていること、その省庁に対する熱い気持ちをしっかりと伝えることが大切だと感じています。政策について事前に詳しく知っているより、お話を伺って理解し、議論していけることが大切なようです。

- (A) : 知識がないから不利、ということはありません。むしろ官庁訪問で政策に関するお話を聞き、それに対して自分はどんな意見を持つのか、そしてそれを自分の言葉で伝えることが大切だと思います。
- (B) : 「政策の知識」と「政策を議論する力」であれば後者の方が大切だと感じました。「政策を議論する力」は論理性や頭の回転に加えて、日頃からもっている社会に対する問題意識によって磨かれていくものだと思います。特定の政策について知っていることは熱意のアピールにはなると思います。ただ、詳しく知っているという段階を超えて、自分が入省してその政策をどうしていこうと考えているのかが行政官志望者にはより重要だと思います。いろいろな人と社会問題について議論しておくことがお勧めです。
- (D) : パンフレットの記載はよく読むが、他は原課面接の際によく聞きよく質問すれば足りると思います。
- (E) : どんな軸で環境省を志望しているかによると思います。何か強い思いが根本にあるのなら、それをメインで語れば良いし、ある分野の政策をやりたくて志望しているなら、政策知識レベルまで語れるようにしておいた方がベターです。私は前者でしたが、後者の人もたくさんいたので。
- (F) : 僕はほぼまっさらな状態で官庁訪問に臨みました。というのも、細かい知識は官僚の方に敵うわけもないし、それだったらまっさらな状態でその場で学べばいいや、と考えていたためです。ただ、関心がある項目等はまとめておいた方がいいと思います。

(G) : 知識よりは思い、興味が大事。政策よりは、問題意識の方が大事。

(I) : 職員の方たちも学生に知識まで期待していないと思います。実際の面接で求められるのは、政策のお話を聞いて、どう感じ、自分の成長につなげられるかです。

その5～やっておけばよかったリスト～

✦ 今思えばやっておけばよかった…受験生の皆さまが同じ思いをしないために伝えたい

今思えば、「〇〇をやっておけばよかった…」と内定者がそれぞれ思うところを伝えたいと思います。内定者と同じ思いをしないためにも、これを参考に後悔のないように官庁訪問に備え、そして内定を勝ち取ってください。

【民間就活】

(A) : 民間就活。私はまったく民間就活はしていませんでしたが、民間就活をした友達の話を聞いたり職員さんとお話したりしていると、民間という立ち位置からの仕事、アプローチも本当に重要だと感じました。また、多くの社会人とどんなことでも話せるのは今の時期だけだと思います。たくさんの人と会って視野を広げることができる貴重な機会なので、私もやっておけばよかったと今になって思います。

(F) : 民間の説明会に参加すること(自分は0回)。幅広い視点を持つことや、民間との比較に役立つので、公務員一本の人でも民間の説明会に足を運んでみるのは志望動機を固めるのにも役に立つはずです。

【公務員試験への準備】

(B) : 学部時代から予備校に通っておけばよかった。教養区分については数的処理の勉強。法律記述については実際に答案を書く練習。法科大学院に通って司法試験と公務員試験のダブル受験を目指すのもありだったかも。

(D) : 全省庁の説明会に参加すること。イメージと異なった新たな発見があります。

(H) : しいて言えば、省庁でのインターン。

(G) : 教養区分の受験。

(I) : 環境省の業務を通じて何を実現したいか、そのために自分は何ができるかをずっと考えておけばよかったと感じています。

【言語学習】

(C) & (J) : 結果的に一度も面接で聞かれなかったが TOEIC 等英語力の強化。入省前に勉強しておこうと思います。

【大学生活】

(E) : 大学院の単位を取り切っておきたかったです…。1年じゃシステム上不可能なんですけどね(現在M1)。みなさんも単位は取っておいた方が良いでしょう!(笑)

【気持ちの切替え】

(J) : 他の試験、民間就活などで失敗したとしても、早めに気持ちを切替えて前向きに取り組むこと。そのためにも自分の夢や目標をしっかりと持ち、辛い時や迷った時はそこに立ち返る様にしましょう。

【その他】

(B) : 幅広い政策テーマについて、同じく官庁訪問を控えた友人達と議論することは、非常に役立ちました。特に、自分の関心が弱かったテーマで議論しておくこと、瞬発力や思考力などが鍛えられると思います。日本史の流れや、世界情勢について情報収集しておくことは、日本の在り方などの大きなテーマの議論をする時に役立ちました。官庁訪問では、細かな政策の知識というより、考え方や、どんな日本を創りたいのかといった、大きなテーマについて話すことが重要であると感じました。

その6～一番〇〇だった質問～

✦ 面接の数だけエピソードが存在する

人事院面接や官庁訪問を通じて沢山の面接を経験した内定者。面接の数だけさまざまなエピソードがあります。その中で、内定者が『一番〇〇だった質問』を選出してくれました。また、覚えている範囲でどのような回答をしたのかも答えてもらいました。参考にしてみてください。

- (A) : ・『一番壮大だった質問(人生で何がしたいの?)』
・『一番答えられそうで答えるのに手間取った質問(この組織で君はどんな風に役に立つことができるの?)』
- (B) : ・『官庁訪問で一番燃える質問(君が行政官ならどうする?)』
⇒思ったことを素直に伝えることや、自分ならではの視点を提示することが大切です。
・『官庁訪問で一番聞かれる質問(何か質問ある?)』
⇒自分の考えを持った上で聞いていくと良いと思います。
・『官庁訪問で一番聞くと良い質問(どうやったら良い行政官になれるか?)』
⇒僕の場合は、人との絆、大局観、やり抜く胆力が重要と伺いました。
・『官庁訪問で一番挑戦的な逆質問(これからの世界の中でどのような日本を創っていくべきだと思いますか?)』
⇒ その省のスタンスがわかる質問だと思います。ただし、自分の意見も聞かれます。
・『官庁訪問で一番最後に聞いていた質問(訪問している省庁の課題は何か?)』
- (C) : ・『一番試されてる感のあった質問(リサイクル等が進んで最終処分されるごみの総量が減ったら、最終処分場関係で生計を立てている企業や人が困るがどうしたらいいか?)』
⇒排出されるごみの総量は同じと仮定すれば、リサイクル等に回されるごみの量と最終処分されるごみの量の合計は変わらない。なので、最終処分を行っている業者がリサイクル業などに業態をシフトしていけば対応できると思います。
・『一番その省庁から離れた質問(〇〇省(別の日に訪問した省)の〇〇っていう政策について私はこう思うんだけど君はどう思う?)』
⇒率直に自分の考えを述べました。面接官の方が持たれていた問題意識について聞いてみたとのことです。3日目訪問だったため、環境省に限らないポテンシャルが見たかったのかもしれませんが。この関係のやり取りで20分位使いました。

- (D) : 『一番印象に残った質問(自然環境行政とは何か?)』
⇒最初はしどろもどろで答えた内容も覚えていませんが(笑)、原課面接で詳しく過去の事例を聞き、最後は自分なりに考えをまとめて言いました。奥が深い質問でした。
- (F) : ・『一番頭を使った質問(牛乳を給食に入れるのは反対かどうか。)]』
⇒食べ合わせ、個人の好き嫌い、栄養分、食育、など多様な観点から職員さんと議論しました。
・『一番胸に響いた逆質問(働き甲斐って何ですか?)』
⇒小学生が書いた、除染作業への感謝の手紙のコピーを見せてくれながら、『子供たちは今でも満足に外で遊べない。帰りたい家に帰れない人もいる。この状況を、少しでも早く何とかしなければならぬしそれが使命である。』とお答えいただいたことです。
- (G) : 『一番予想外だった質問((面接カードに書いた「いい時代にする」という字を褒められた後)この隣に絵を飾るとしたらどんな絵が似合うだろうね?)』
- (H) : 『一番困った質問(ゼミでやったことが仕事でどのようなことに役立つの?)』
⇒典型質問の一つかもしれませんが、唐突に振られたので少し戸惑いました。仕事を知っていないといけないということはないと思いますが、原課面接で聞いた話も引き合いに出しながら何とか答えました。
- (I) : ・『一番印象に残った質問(君をアニメキャラに例えると何?)』
⇒忍耐力をPRしていたので、「母を訪ねて三千里」の主人公と答えました。
・『一番難しかった質問(君が目指す日本像を教えて)』
⇒漠然としか考えてなかったので、実際に言葉にするのはかなり難しかったです。
- (J) : ・『一番予想していた質問(前職の退職理由と前職の職務内容)』
⇒退職理由が志望理由であったため、それを話しました。また職務内容は自分が従事した仕事でイメージをしやすいものを話しました。
・『一番楽しかった質問(どのような業務(具体的な政策)に携わりたいか?)』
⇒自分の興味のある政策を上げ、その政策を使ってどのようなインパクトを与えることができるかを議論しました。自分の考えの良い点、至らない点を指摘して頂きとても勉強になりましたし、お互いの考えをぶつけ合う状況が楽しかったです。

編集後記

この度は環境省2014事務系内定者の声に目を通して頂き本当に有難うございました。この冊子に手を取るのには、就職活動に臨む皆さまに加えて、来年から環境省で働く一同の親御さんも含め、環境省に関心のある方だと思います。私どもの文章が皆さまのお役に立てたなら、そして、環境省ってどんなところという疑問に少しでも答えられたなら幸いです。

皆さまは冊子に目を通してどのような印象を持たれましたか？中には少し偉そうだと感じる箇所があったかもしれません。しかし、それは、私どもが過去にした失敗をこれから就職活動に臨む皆さまには繰り返して欲しくない、来年は今年以上に志の高い後輩に環境省の門を叩いて欲しいとの思いからです。「環境を軸に日本を変え、世界を変え、歴史を創る。」私達も初心を大切にしながら様々なことを吸収し、全力で仕事に臨んでいきたいと思っています。

世界中の人々が先進国の人々と同じ暮らしを享受できる社会が急速に実現されている一方で、地球環境問題も待ったなしの課題として重要性を増しています。また、国際情勢、財政状況、人口動態、産業の国際競争力、東日本大震災からの復興など、日本も待ったなしの課題に直面しています。そんな中で、世界と日本の未来を切り拓きたい方、環境省でお待ちしております。一緒に働きましょう！

ご意見・ご要望等あれば下記までご連絡頂けると幸いです。

env.2015.jimu@gmail.com